

平成 23 年 度

業 務 年 報

大分県農林水産研究指導センター

平成23年度 業務年報

目 次

I	大分県農林水産研究指導センターの概要	1
1	農林水産研究指導センターの組織	1
2	試験研究課題の重点化と評価の徹底	2
3	情報発信機能の強化	5
4	試験研究機関の連携推進	5
5	研究員の資質向上	5
6	農林水産関係研究成果発表会	7
7	職務発明、特許出願、種苗登録	8
8	大学との連携	9
9	受賞、学位取得の状況	9
10	主要な行事・会議等	9
11	各所属の業務・試験研究	10
12	予算概要	11
II	研究部・グループの概要	12
1	農業研究部	12
2	水田農業グループ	25
3	果樹グループ	28
4	花きグループ	33
5	畜産研究部	37
6	林業研究部	44
7	きのこグループ	48
8	水産研究部	54

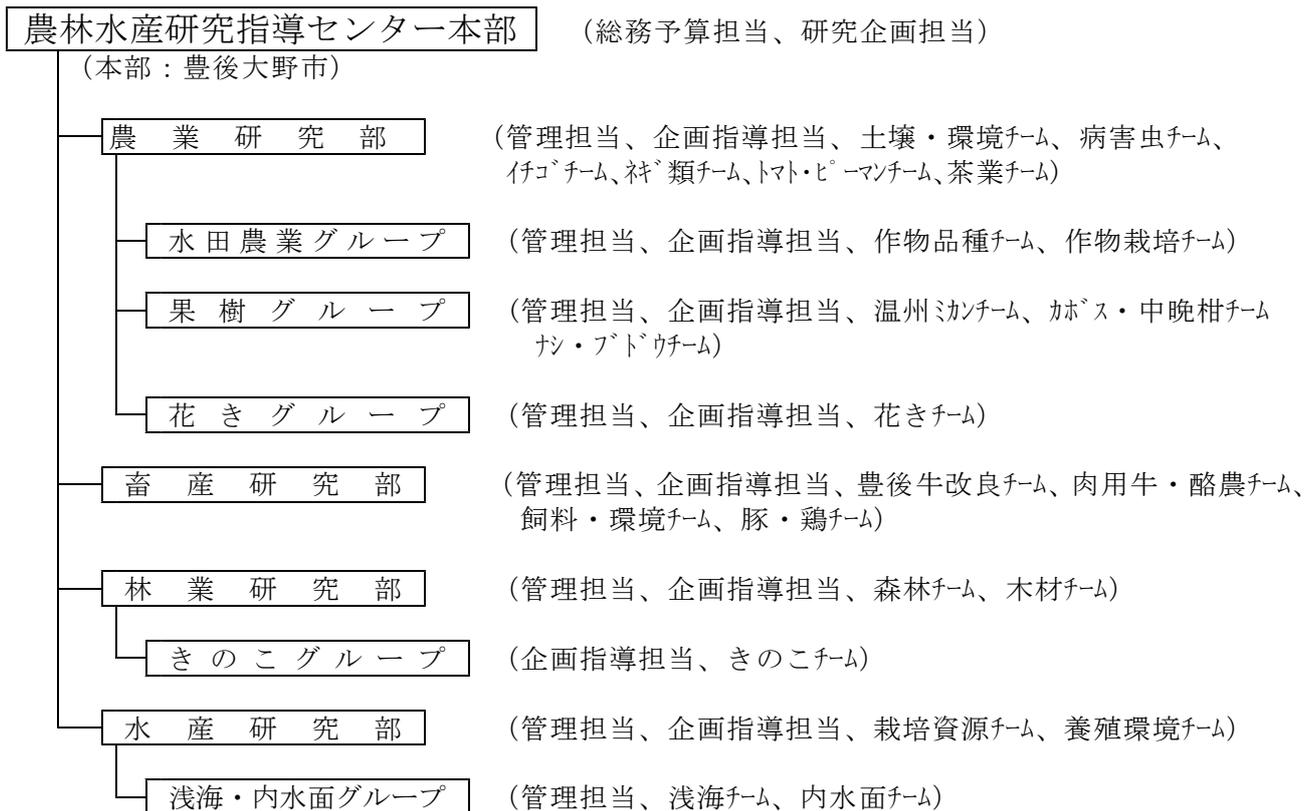
I 大分県農林水産研究指導センターの概要

1. 農林水産研究指導センターの組織

平成17年4月に、農業、畜産、林業、水産の各試験研究機関を統合し、「農林水産研究センター」を設置した。その後の農林水産を取り巻く環境や情勢の変化を踏まえ、「産地間競争に打ち勝ち、もうかる農林水産業」を実現するため、現場ニーズに応えた研究、研究のスピード化、成果の迅速な普及をめざして、研究指導体制を強化し、平成22年4月に「農林水産研究指導センター」に名称を変更した。環境対策をはじめ分野を超えた研究課題に対し、連携強化を図るため、農業・畜産・林業・水産の4研究部に再編し、効率的・効果的な研究開発を行うため、チーム制を導入し、センター本部を豊後大野市に移し、全体を統括するセンター長と総務予算担当、研究企画担当を配置した。平成23年4月に宇佐市から農業研究部の土壌・環境チームと病害虫チームを、6月にはイチゴチームを豊後大野市に移転し、組織再編を完了した。今後は試験研究の成果により開発した新技術を研究員自ら普及指導員と一緒に生産現場に赴き、生産者への研修、技術実証を行うなど普及指導体制の強化に取り組んでいる。

本部の主な業務は、試験研究機関の予算の総合調整、研究課題の決定・進行管理、共同研究調整、知的財産取得・活用、課題評価・成果公表、研究員の資質向上、産学官交流・連携促進である。

組 織



農林水産研究指導センター各場所別職員配置表

平成23年5月1日現在

機 関	事務吏員	技 術 吏 員					技労職員 事務補佐	合計
		研究	行政	普及	海事	計		
農林水産研究指導センター本部	4		6			6		10
農業研究部	5	35	1	4		40	10	55
水田農業グループ	4	8	1	1		10	5	19
果樹グループ	1	14	1	2		17	7	25
花きグループ	1	6	1	1		8	5	14
畜産研究部	4	22	2	3		27	29	60
林業研究部	2	12	1	1		14	3	19
きのこグループ		6	1	2		9	1	10
水産研究部	5	15	1		6	22	1	28
浅海・内水面グループ	1	11	1			12	2	15
合 計	27	129	16	14	6	165	63	255

2. 試験研究課題の重点化と評価の徹底

現場ニーズに即した試験研究を効率的に実施するため、研究課題数を概ね100課題に厳選し、研究のスピード化を図るため、研究期間を原則3年間とした。

研究課題の設定や進行管理に当たっては、内部・外部評価を厳格に行い、評価結果や進捗状況を公表した。

(1) 評価の種類別対象課題

1) 事前評価

開発しようとする技術の内容や手法を精査し、予算要求を行う事前の段階において新規候補課題のすべてについて、県民のニーズや政策的なニーズ、目標達成の可能性などすべての観点から評価を得て、事業実施の適否について判断した。

2) 中間評価

研究の進捗状況や現場ニーズ、取り巻く状況の変化等を踏まえた上で、試験研究継続の適否を判断する。研究期間が4年以上の課題でこれまで評価を受けなかったものについて実施した。

3) 事後評価

今後の現地移転の促進や次期試験研究計画の策定等に活かすため、研究活動の3年目に研究課題の終了時点を見越し研究成果について実施した。

(2) 所内新規課題等検討会（外部評価委員会専門部会：6月16日～7月13日）

現場ニーズにあった試験研究計画にするとともに、試験研究結果について検証し、現地移転を促進した。開催は各研究部、グループ単位で行い、研究員、生産原課の担当職員、普及指導員、生産者代表等に出席を求め、研究実施の必要性、方法の適否、成果とその普及手法等について検討した。

また本検討会に専門分野からの技術的アドバイスを受けるため学識経験者、生産者、消費流通関係者等で構成する外部評価委員会専門部会員の出席を求め、新規研究課題に関して「技術的達成の可能性」の観点から意見をもらった。

平成23年度農林水産研究指導センター外部評価委員会専門部会

委員会 開催日	部 門	専 門 部 会 員		
		所 属 名	職 名	氏 名
6/23	病 害	独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 生産環境研究領域 病害虫研究グループ	上席研究員 プロジェクトリーダー	平八重 一之
		九州大学 鹿児島大学	名誉教授	湯川 淳一

平成23年度農林水産研究指導センター外部評価委員会専門部会

委員会 開催日	部門	専門部会員		
		所属名	職名	氏名
6/24	土壌・環境	独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 生産環境研究領域	上席研究員	草場 敬
		国立大学法人 九州大学 大学院 農学研究院 環境農学部門 植物生産科学	教授	和田 信一郎
6/27	野菜・茶業	国立大学法人 九州大学 大学院 農学研究院 植物資源科学部門 農業植物科学講座	教授	大久保 敬
		独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター	暖地野菜花き 研究調整監	坂田 好輝
		独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 水田作・園芸研究領域	上席研究員	沖村 誠
7/13	水田農業	独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 水田作・園芸研究領域	暖地水田輪作 プロジェクトリーダー 上席研究員	田坂 幸平
		三和酒類株式会社	専務取締役	下田 雅彦
		国立大学法人 九州大学 大学院 農学研究院 環境農学部門 農業生産生態学	准教授	望月 俊宏
6/30	果樹	国立大学法人 鹿児島大学 農学部 生物生産学科 園芸生産学講座	教授	富永 茂人
		独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 果樹研究所 カンキツ研究口之津拠点	カンキツ調整監	塩谷 浩
		学識経験者 (元柑橘試験場長)	学識経験者	甲斐 一平
		大分県果樹生産者協議会 (大分県柑橘研究会)	会長 (会長)	川野 英信
6/24	花き	独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 水田作・園芸研究領域	上席研究員	池田 廣
		東海大学 農学部 応用植物科学科 蔬菜花卉園芸学研究室	教授	田中 孝幸
		別府市公園緑地課 別府市南立石緑化植物園 みどりの相談所	相談員	後藤 哲
6/27	畜産	国立大学法人 九州大学 大学院 農学研究院 資源生物科学部門 動物海洋生物資源学講座 家畜生態学分野	准教授	後藤 貴文
		独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター	畜産草地 研究領域長	梶 雄次
		社団法人 大分県畜産協会	専務理事	久保田 竹次
6/23	林業	国立大学法人 九州大学 大学院 農学研究院 森林資源科学部門 サステナブル資源科学講座	准教授	藤本 登留
		独立行政法人 森林総合研究所九州支所 森林生態系研究グループ	主任研究員	金谷 整一
6/27	きのこ	国立大学法人 九州大学 大学院 農学研究院 環境農学部門 森林環境科学講座	教授	大賀 祥治
		独立行政法人 森林総合研究所九州支所 森林微生物管理研究グループ	主任研究員	宮崎 和弘
7/1	水産	国立大学法人 九州大学 大学院 農学研究院 資源生物科学部門 動物・海洋生物資源学講座	教授	松山 倫也
		独立行政法人 水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所 業務推進部	部長	川崎 清
		独立行政法人 水産総合研究センター 増養殖研究所上浦庁舎 養殖技術部	グループ長	加治 俊二

(3) 試験研究推進本部会議本部員並びに企画評価会議委員による評価会議(内部評価)

(農業：8月3日、畜産：8月5日、林業・水産：8月8日)

農林水産部長、審議監、県庁生産原課の課室長、農業大学校長並びに農林水産研究指導センター一長で構成する試験研究推進本部会議本部員と総務部・企画振興部・生活環境部の総務企画監、商工労働部の産業企画監並びに農林水産部政策企画監、流通企画監で構成する企画評価会議委員による評価会議を開催し、事前、事後及び中間の評価対象研究課題について評価を受けた。

(4) 外部評価委員会(外部評価)：9月15日

経済界や大学の学識経験者、市場関係者や生産者代表をもって構成する外部評価委員により、「研究課題の必要性」、「研究課題の社会的・経済的効果」及び「県が行う必要性」について評価を受けた。

平成23年度農林水産研究指導センター外部評価委員出席者

分野	委員名	役職等	選定理由
経済界・学識 経験者	三浦 宏樹	日本政策投資銀行 大分事務所長	前任所長が、大分県新長期総合計画策定県民会議委員(産業振興部会)を務め、地域経営や地域づくりに関する豊富な情報を踏まえた評価が期待できる。
	本谷 るり	大分大学 経済学部 准教授(経営戦略論)	大分県新長期総合計画策定県民会議委員(産業振興部会) 一次産業の経営戦略的な観点から研究課題の妥当性について評価を期待できる。
流通関係者	長尾 喜久男	京都青果合同(株) 執行役員部長	大分県マーケティングアドバイザー。 大消費地における商品化を踏まえた技術開発について助言と評価が期待できる。
	立石 弘司	イオン九州(株) 産地開発部長	大分県マーケティングアドバイザー。 大消費地における商品化を踏まえた技術開発について助言と評価が期待できる。
	藤澤 政則	大分一村一品 株式会社 代表取締役社長	県内におけるマーケティングに携わる最前線の立場から技術開発の必要性等について評価が期待できる。
生産者代表	大窪 勉 (農業部門)	小ネギ	大分"味一ねぎ"生産部会副部会長 (有)葱屋おおくぼ
	近藤 和義 (畜産部門)	肉用牛経営者	県議、社団法人大分県畜産協会会長 おおいた森林組合長
	田島 信太郎 (林業部門)	林業経営者	(株)田島山業社長
	渡邊 英敏 (水産部門)	小型機船底曳網 漁業者	元大分県漁業協同組合青年部長 大分県漁協宇佐支店運営委員

(5) 平成24年度研究課題の決定

内部評価で総合得点60点以上の課題については、次の外部評価に進み、60点未満のものについてはこの時点で事前評価対象課題から除外するが、今回内部評価を受けた課題は38で、60点未満のものはなく、全課題が外部評価対象課題となった。

外部評価発表課題は原則、新規課題を対象とし、新規課題の無い研究部においては継続新規課題を対象とした。また新規課題の多い研究部については、研究としてアピールの必要がある課題を対象とした。外部評価で総合60点以上の課題については、事前評価対象課題に決定し、60点未満のものについては内部評価会議の結果を踏まえて、最終的にセンター一長が研究課題として採択するか否か判断するが、今回外部評価を受けた課題は12で、すべて総合得点60点以上であった。

24年度の新規候補課題は38であり、全課題を採択した。

(6) 評価制度の見直し

主要な見直しとして、以下の2点の評価制度の変更を行った。

- ・評価は研究指導センターの実施する研究課題を対象に行うこととするが、評価の重複を避け、効率化を図る観点から、国等の競争的資金による課題などセンター長との協議により実施の可否を決定できる評価対象課題の例外措置を設けた。
- ・事後評価の実施年度を「研究終了年度」から「研究終了翌年度」に変更した。

3. 情報発信機能の強化

(1) 大分県農林水産研究指導センターホームページ

月に一度、センターの研究成果をホームページに掲載し、センターの研究内容や進捗状況について周知を図った。

掲載年月日	タイトル
H23. 10. 14	カボス入りの餌で養殖ブリがより美味に！
H23. 12. 1	シカ捕獲用囲いワナの改良
H23. 12. 15	ゼリーのような新食感「大分果研4号」の開発
H24. 1. 20	期待の但馬系種雄牛「湯布安平（ゆふやすひら）」誕生！
H24. 2. 29	誕生！大分の新ブランド米「つや姫」
H24. 3. 23	鉢物トルコギョウ「チェリービー」の育成

4. 試験研究機関の連携推進

県内の試験研究機関が総合的かつ有機的な連携を図るため、衛生環境研究センターと産業科学技術センターとで大分県試験研究機関連携会議を平成22年度に設置し、研究員の交流、意見・情報交換の推進、試験研究機器の相互有効活用の推進、研究の連携推進等を行った。

5. 研究員の資質向上

研究課題解決のための高度な技術の習得及び資質向上のため研究員の研修を実施した。

(1) 短期派遣研修

所 属	職・氏名	派遣先	派遣地	研修期間	研修課題
水産研究部 浅海・内水面 グループ	主任研究員 内海 訓弘	社団法人 日本水産資源保護 協会	東京都 中央区	H23. 11. 30 ～12. 7 8日間	養殖衛生管理技術者養成 研修本科コース 専門
畜産研究部	研究員 衛藤 央好	社団法人 畜産技術協会附属 動物遺伝研究所	福島県 西白川郡 西郷村	H24. 1. 23 ～2. 11 20日間	「隆茂38」後代家系の3k チップを用いた産肉性に 関する遺伝子領域解析及 び効果検証に係る分析技 術研修等

(2) 長期派遣研修

所 属	職・氏名	派遣先	派遣地	研修期間	研修課題
林業研究部 きのこグループ	主任研究員 甲斐 充	独立行政法人 森林総合研究所 九州支所	熊本県 熊本市	H23. 7. 19 ～9. 16 59日間	温暖化条件下におけ るきのこ類の栽培と 病害の判定に関する 知識と技術の取得

(3) 若手研究員研修

若手研究員に対して、本県の農林水産業を取り巻く情勢、他研究部・グループでの研究内容及び研究に対する心構え等について理解を深めるとともに、先輩研究員からの講演をとおり、若手研究員の意欲を高め、幅広い観点から試験研究遂行能力の向上を図るため研修を行った。

開催年月日	開催場所	参加者数	内容
H23. 8. 23	水産研究部	30歳以下の若手研究員 19名	水産研究部における研究概要と施設について センター長講話「若手研究員に期待すること」 講演～先輩研究員からのメッセージ～ 「魚病対策における研究機関の役割」 講師 水産研究部 養殖環境チーム 主幹研究員 福田 穰

(4) 中堅研究員研修

中堅研究員に対して、「ニーズ」について、実需者、消費者それぞれの視点で捉えるとともに、他の研究機関との意見交換をとおり、視野を広げ、試験研究企画及び自己開発能力の向上を目的に研修を行った。

開催年月日	開催場所	参加者数	内容
H23. 11. 7	花きグループ	主任研究員 22名	花きグループにおける研究概要と施設について 講演 「関西市場での大分県産農林水産物の評価・課題について」 講師 大分県大阪事務所 次長 矢野 格 意見交換会 「農林水産業産出額 2100億円を実現するための研究開発 ～販売額10%向上に向け、研究機関はどのような取り組みを 行うべきか～」

(5) チームリーダー研修

各研究部、グループのチームリーダー及び企画指導担当（総括）を対象に研究の企画・立案能力の向上を図り、リーダーとしての自覚を高めることを目的に研修を実施した。

開催年月日	開催場所	参加者数	内容
H23. 6. 6	県庁舎別館 84会議室	チームリーダー 20名 企画指導担当 9名	講演「チーム目標へ向けたチームリーダーの役割」 講師 (株)プレスタイム九州 代表取締役 米澤 金作 研究事例紹介 「魚病対策における研究機関の役割」 水産研究部 養殖環境チーム 主幹研究員 福田 穰

(6) マーケティング研修

国内外の農業の動向など幅広い情報とマーケット動向を的確に把握し、農林水産業をめぐる環境等の変化及び市場ニーズをしっかりとつかみ、将来を見据えた新たな発想を生み出す研究員の育成を図ることを目的に研修を実施した。

開催年月日	開催場所	参加者数	内容
H24. 2. 16	きのこグループ 研修室	研究員 19名 その他 30名	講演「福岡地区での大分県農林水産物の評価・課題について」 講師 大分県福岡事務所 主査 塩崎 尚美 講演「貿易自由化における韓国の農業について」 講師 農業ジャーナリスト 青山 浩子

(7) プレゼンテーション研修

説得力あるプレゼンテーション技術や論理的なシナリオ構築、洗練された話し方を習得することを目的に研修を実施した。

開催年月日	開催場所	参加者数	内容
H23. 6. 15 ～6. 16	県庁新館 OA プラザ	研究員 14名	テーマ「研究発表のためのプレゼン技術」 講師 東北大学大学院 生命科学研究所 准教授 酒井 聡樹

(8) 数理統計研修

試験研究を行っていく上で、基礎的かつ重要な数理統計について、農林水産試験研究における基礎的な手法の習得とあわせて、現場において直面すると思われる数理統計処理の演習を行うため研修を実施した。

開催年月日	開催場所	参加者数	内容
H23. 11. 21~22 H23. 12. 5~6	県庁新館 OA プラザ	研究員 14名	「基礎編」 「応用編」 講師 独立行政法人 農業環境技術研究所 生態系計測研究領域 上席研究員 三中 信宏

(9) 部間連携会

組織再編に伴い、部間連携も一部では行われているものの、共通テーマの情報交換を実施することにより、さらなる部間連携の強化及び緊急課題等の早期解決能力の向上を図ることを目的に実施した。

開催年月日	開催場所	参加者数	内容
H23. 12. 16	農林水産研究 指導センター 第3会議室	研究員 20名	基調講演 「DNA の研究状況について」 講師 林 浩昭 研究指導顧問 研究事例等発表 「DNA マーカーを用いた県育成品種判別法の開発」 農業研究部 イチゴチーム 安部 良樹 研究員 「有機栽培が土壌微生物多様性に与える影響」 農業研究部 土壌・環境チーム 山野 秀真 研究員 「現地ニーズに対応した新着花予測法の緊急確立と栽培管理への応用」 果樹グループ 温州ミカンチーム 矢野 拓 主任研究員 「種雄牛の産肉性に関する遺伝子領域解析及び効果検証」 畜産研究部 肉用牛・酪農チーム 藤田 達男 主幹研究員 「魚病診断における PCR 検査」 水産研究部 養殖環境チーム 木本 圭輔 主任研究員 当日は景平 真明 主幹研究員 (代) 情報交換会「DNA について語ろう」

6. 農林水産関係研究成果発表会

(1) 第1回現地研究成果発表会

現地に見合った、関心の高い研究成果を生産者等に紹介し、今後の生産活動に役立ててもらうことを目的に開催した。

開催日時：平成24年2月7日（火） 13:30~16:00

開催場所：エイトピアおおの 小ホール

対象：ピーマン・カンショ生産者、大規模稲作農家、葉たばこ廃作農家、農業委員、一般県民等
参加者数：300名（豊後大野市長出席）

研究成果発表 発表時間：1 課題 25分

No	所属	職・氏名	発表課題
1	農業研究部	主幹研究員・小野元治	西日本一のピーマン産地を支える病害虫防除技術
2	農業研究部	主幹研究員・佐藤 郁	高糖度カンショ「甘太くん」の栽培法と糖度向上
3	水田農業グループ	主任研究員・清水康弘	誕生！大分の新ブランド米「つや姫」
4	林業研究部	研究員・北岡和彦	シカ被害の現状と「囲いワナ」による効果的な捕獲

研究成果物試食

- 1) 大分の新ブランド米「つや姫」と「ヒノヒカリ」の食べ比べ
- 2) 高糖度カンショ「甘太くん」

(2) 農林水産研究指導センター研究紹介

豊で安全・安心な食の提供のための研究及び技術開発の成果を県民に広く情報提供することを目的に開催した。

開催日時：平成24年3月5日（月） 13:00～16:00

開催場所：大分文化会館 第1小ホール

対象：消費者団体、生協関係者、一般県民等

参加者数：130名（農林水産部長出席）

講演 「大分の食の安全性向上に向けて」

講師：センター研究指導顧問 林 浩昭

研究紹介 発表時間：1課題20分

No	所属	職・氏名	発表課題
1	農業研究部	主任研究員・岡崎真一郎	天敵などを利用した環境にやさしいピーマン栽培
2	畜産研究部	主任研究員・志村英明	家庭で味わうこだわりの地鶏「おおいた冠地どり」の開発
3	水産研究部	主幹研究員・福田 穰	抗菌剤を使用しない魚類養殖への挑戦！
4	きのこグループ	主任研究員・甲斐 充	森林の恵みを食卓に！～日本一の乾しいたけ栽培～

研究成果物試食

- 1) イチゴ センターが開発した新品種「大分3号」と「さがほのか」
- 2) センターが栽培、貯蔵技術を確立した「甘太くん」と「高系14号」

7. 職務発明、特許出願、種苗登録

(1) 職務発明、特許出願

平成19年12月17日に特許出願を行った「受胎率および産子数向上凍結精子およびその製法」は、平成23年7月22日に特許登録された。また1件の審査請求を行った。

平成23年度特許出願等一覧表

発明・考案の名称	大分県の発明・考案者	発明・考案者の所属	権利者の持分 (%)	出願番号 (出願年月日)	審査請求 (審査請求年月日)
受胎率および産子数向上凍結精子およびその製法	岡崎哲司	畜産研究部	大分県 50 広島大学 50	特許 第2011-97659 (H19.12.17)	(H23. 4.25)
ウシ個体における枝肉重量及び体高を増加させる遺伝的能力を評価する遺伝子マーカー及びそれを用いた枝肉重量及び体高に関する遺伝的能力の評価方法	藤田達男 渡邊直人	畜産研究部 家畜衛生飼料室	大分県 10 畜産技術協会 50 青森県産業技術センター 10 島根県 10 長崎県 10 鳥取県 5 佐賀県 5	特許 第2011-252062 (H23.11.17)	(H24. 3.26)

(2) 種苗登録

平成21年4月27日に品種登録出願した、トルコギキョウ1品種が品種登録された。

平成23年度品種登録一覧表

種類	登録品種名	育成者の所属	登録番号	登録年月日
トルコギキョウ	チェリービー	花きグループ	第20806号	平成23年5月24日

8. 大学との連携

県内には農林水産系の4年制大学がなく、研究交流が容易に進み難い状況にあるため、平成19年1月29日に九州大学大学院農学研究院と共同研究や人材養成について連携する基本協定を締結し、共同研究等で幅の広い研究を行うための連携を進めた。なお平成24年1月28日を以て5年間の有効期間が満了することから、平成24年1月29日に基本協定の延長を行った。平成23年度は、17課題（継続課題も含む）について共同研究・連携に向けた取り組みを行い、共同研究として取り組んだものが2課題、共同研究・連携に向けて検討中のものが6課題、具体的な連携に至らなかったものが9課題であった。

9. 受賞、学位取得の状況

23年度は1名の研究員が受賞し、学位取得者はなし。学位取得のため大学院博士後期課程に在籍する研究員は1名である。平成24年3月末における農林水産部職員の博士号取得者は15名である。

(1) 受賞者一覧表

受賞者	受賞名	表彰授与主体	受賞年月日	受賞の内容
豆田 俊治	第24回研究功績賞	全国林業試験研究機関協議会	2012年1月25日	「大分方式乾燥材」の研究成果は、県の重点施策の柱として活用され、関係業界への生産体制の確立と製品の品質向上に貢献した。

(2) 博士課程社会人枠入学者一覧表

学位取得予定者	所属	職名	入学月日	取得予定大学	学位	学位論文テーマ
岡崎 真一郎	農業研究部	主任研究員	博士後期課程 社会人入学 平成22年10月1日	九州大学	農学	ミカンキイロアザミウマとウイルスの動態に関する研究

【農林水産部職員（H23年3月末現職）の博士号取得者 15名】

農林水産研究指導センター：10（内訳 農業(1)、水田(1)、畜産(2)、林業(1)、きのこ(2)、水産(3))、その他：5

10. 主要な行事・会議等

(1) 主な行事・会議等一覧表

H23		
8月3日	農林水産部試験研究推進本部評価会議（農業）	水産会館 研修室
8月5日	農林水産部試験研究推進本部評価会議（畜産）	コンパルホール 多目的ホール
8月8日	農林水産部試験研究推進本部評価会議（林業・水産）	水産会館 研修室
9月13日	研究成果知事報告	知事室 第1応接室
9月15日	外部評価委員会	土地改良会館 大会議室
10月22～23日	農林水産祭（農林部門）への農業・畜産・林業研究展示	別府公園
10月29～30日	農林水産祭（水産部門）への水産研究展示	亀川漁港
H23		
2月7日	第1回現地研究成果発表会	エイトピアおおの 小ホール
3月5日	農林水産研究指導センター研究紹介	大分文化会館 第1小ホール

(2) 部長会議、所属長会議及び企画調整会議の開催

各試験研究機関との連絡調整を図るため、本部と各研究部長で構成する部長会議、本部と各研究部長・グループ長とで構成する所属長会議及び各研究部、グループの企画指導担当で構成する企画調整会議を開催した。

なお、部長会議は2回、所属長会議は3回、企画調整会議は4回開催した。

11. 各所属の業務・試験研究

所属名	主な業務・研究内容
農林水産研究指導センター（本部）	<ul style="list-style-type: none"> ○研究課題の決定調整・進行管理 ○共同研究の調整・知的財産取得・活用 ○課題評価・成果公表 ○研究員の資質向上 ○産学官交流・連携促進
農業研究部	<ul style="list-style-type: none"> ○土壌管理・施肥改善技術、有機栽培技術 ○病虫害発生予察・防除技術、環境保全型農業技術 ○イチゴの品種育成・選定、栽培技術、バイオ技術 ○ネギ・ニラ等の品種選定、栽培技術 ○トマト・ピーマン等の品種選定、栽培技術 ○茶の品種選定、栽培・加工技術
水田農業グループ	<ul style="list-style-type: none"> ○稲・麦・大豆の品種の育成・選定 ○稲・麦・大豆の栽培技術、優良種子生産
果樹グループ	<ul style="list-style-type: none"> ○温州ミカンの優良系統の選抜、栽培技術 ○カボス・中晩柑等の育種、優良系統の選抜、栽培技術 ○ナシ・ブドウ等の育種、優良系統の選抜、栽培技術
花きグループ	<ul style="list-style-type: none"> ○花き類の育種、優良系統の選抜、栽培技術
畜産研究部	<ul style="list-style-type: none"> ○種雄牛の造成、改良増殖 ○肉用牛・乳用牛の飼養技術、繁殖技術 ○飼料生産技術、放牧技術、家畜環境対策 ○豚の育種、飼養管理技術 ○家禽の育種、飼養管理技術
林業研究部	<ul style="list-style-type: none"> ○森林施業技術、スギ等育種、病虫獣害対策技術 ○木材乾燥技術、木材性能評価、製品開発、竹材加工技術
きのこグループ	<ul style="list-style-type: none"> ○きのこの育種、栽培技術、病虫害防除技術 ○きのこ類の生理、分類、同定、経営に関する研究
水産研究部	<ul style="list-style-type: none"> ○種苗生産と育種、放流効果技術、水産資源管理、漁場造成技術 ○養殖技術の開発、魚介類の疾病対策、漁場環境保全、水産物の品詞向上技術
浅海・内水面グループ	<ul style="list-style-type: none"> ○別府湾以北の漁場環境保全、海藻類の増養殖技術、魚介類の種苗生産、放流技術、資源管理 ○淡水魚の増養殖技術、資源管理、環境及び生物の保全、魚病診断・対策技術

12. 予算概要

平成23年度予算概要（当初予算[人件費を除く]）

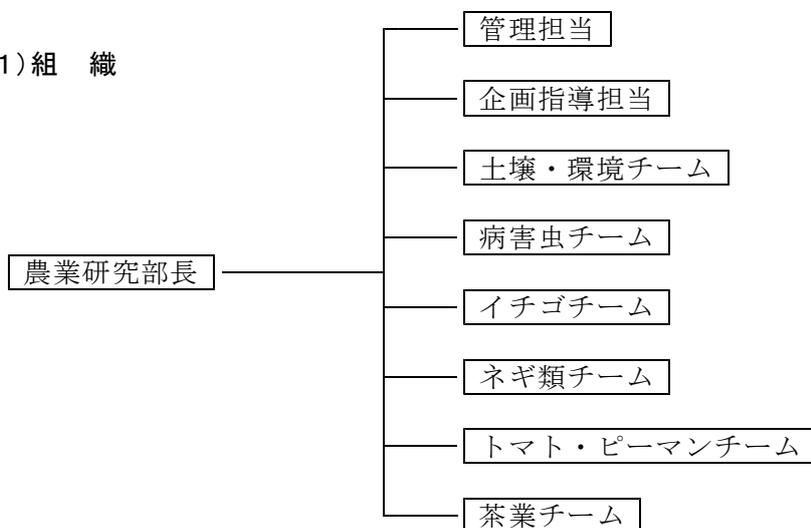
（単位：千円）

区 分	管理運営費	施設整備費	試験研究費	普及指導費	計
試験研究調整費 （農林水産研究指導センター本部）	4,870		54,020		58,890
農業研究部	45,899	3,345	40,533		89,777
水田農業グループ	37,368	8,252	16,746		62,366
果樹グループ	7,537	4,121	31,495		43,153
花きグループ	9,766	1,848	8,196		19,810
畜産研究部	38,813	2,995	130,965		172,773
林業研究部	18,624	5,477	11,291	675	36,067
きのこグループ			12,409	2,326	14,735
水産研究部	25,458	3,150	31,974		60,582
浅海・内水面グループ	22,237	1,002	17,592		40,831
合計（農林水産研究指導センター）	210,572	30,190	355,221	3,001	598,984

Ⅱ 各研究部・グループの概要

Ⅱ-1 農業研究部

(1) 組織



(2) 職員配置状況

組織	職 種	職 員		技師	労務技師	業務技師	事務補佐	計	備 考
		事務	技術						
部 長	管 理 担 当	5	1	1			3	1	広域普及指導員 4
	企 画 指 導 担 当		7					9	
	土 壌 ・ 環 境 チ ャ ーム		6		1			7	
	病 害 虫 チ ャ ーム		9					9	
	イ チ ゴ チ ャ ーム		6		1	1		8	
	ネ ギ 類 チ ャ ーム		4					4	
	ト マ ト ・ ピ ー マ ン チ ャ ーム		5	1	1			7	
	茶 業 チ ャ ーム		2	1				3	
	計	5	39	3	3	1	3	55	

(3) 業 務

- ①農産物の安全安心に関する研究
- ②環境に優しい農業生産技術
- ③病虫害管理技術及び土壌管理技術
- ④植物検疫及び病虫害発生予察情報等の情報発信
- ⑤イチゴ・ネギ類・いも類・トマト・ピーマン・茶等の品種選定・育種
- ⑥イチゴ・ネギ類・いも類・トマト・ピーマン・茶等の高品質、省力・低コスト栽培技術
- ⑦バイオテクノロジー手法を用いた品種判別技術
- ⑧農産物の安全安心・病虫害管理・各種野菜生産等に関する既開発技術の現地移転

1. 平成23年度試験研究課題

試験研究課題名 I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目	担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 産地間競争に打ち勝ち、もうかる農林水産業を実現するための研究開発				
①ブランド化のための技術開発				
1 イチゴ新品種の育成				
1) 交配	イチゴチーム	病害虫チーム	H16～25	県単
2) 実生選抜	〃	〃	〃	県単
3) 系統選抜				
(1) 二次選抜	イチゴチーム		H16～24	県単
(2) 三次選抜	〃	病害虫チーム	〃	〃
(4) 生産力・特性検定	〃	病害虫チーム、イチゴ品種育成支援プロ	〃	〃
(5) 地域適応性試験	〃	品種育成支援プロ	〃	〃
6) 「大分3号」の現地栽培支援	〃	広域普及員、振興局、ブランド推進課、園振室、全農大分県本部	〃	〃
2 DNAマーカーを用いた県育成品種判別法の開発				
4) イオンビーム照射キクの品種判別	イチゴチーム	花きチーム	H22～23	県単
5) トルコギキョウの品種判別	〃	〃	〃	〃
6) 判別法の簡易化および実用性の検討	〃	〃	〃	〃
3 種なしカボス「シードレス豊のミドリ」の育成				
1) 3倍体利用による種子なしカボスの育成				
(1) 3倍体の作出	イチゴチーム	果樹グループ、カボス・中晩柑チーム	H21～23	県単
②マーケット起点のものづくりを支える技術開発				
4 ミナミアオカメムシを含めた大豆吸実性カメムシ類に対する防除対策技術の確立				
1) 発生実態調査				
(1) 現地圃場での発生実態解明				
イ 現地圃場での発生実態調査	病害虫チーム	九沖、福岡県、(株)富士フレイバー、水田G、北部局、豊肥局	H21～23	県単
2) 防除技術の確立				
(2) 追加防除適否基準の作成				
ア 第3世代成虫に対する防除時期と被害量の検討	〃	北部局	H22～24	県単
イ 大豆被害粒産出能力の差異比較	病害虫チーム	北部局、豊肥局、水田G	H21～23	〃
(3) 大豆総合防除体系確立	〃	北部局	H22～24	〃

試験研究課題名		担当	連携機関	研究期間	予算区分	
I 大課題	1 中課題	1) 小課題	(1) 試験項目			
5	イチゴ育苗期の大規模経営支援のための安定生産技術					
	1)	育苗期の病害虫防除技術の確立	病害虫チーム	各振興局	H21～23	県単
	2)	現地の課題に応じた育苗期の防除実証試験				
	(1)	うどんこ病の防除対策	病害虫チーム	〃	H21～23	県単
	(2)	イチゴ病害に対する薬剤選定	〃		H22～24	委託
	3)	県独自品種の病害抵抗性検討	〃	イチゴチーム	H21～23	県単
6	パッケージセンターと局所環境制御技術を活用した大規模高収益イチゴ経営モデルの構築					
	1	局所環境制御等による生産安定技術の確立				
	4)	灌水同時施肥と炭酸ガスの効率的施用による厳寒期の果実品質向上と増収技術				
	(1)	施肥効果を判定するための基準作成（夏季）	イチゴチーム	土壌・環境チーム、佐賀県、九沖、長崎県、九電等	H22～24	国庫
	(1)	施肥効果を判定するための基準作成（栽培期間中）	〃	〃	〃	〃
	(2)	効率的な施肥技術の確立	〃	〃	〃	〃
	(3)	炭酸ガス濃度制御方法	〃	〃	〃	〃
	(4)	炭酸ガスの施用効果を高める肥培管理	〃	〃	〃	〃
	2	規模拡大のための省力・低コスト化技術の確立				
	1)	作期拡大に対応した省力育苗方法				
	(1)	ランナー子苗を活用した省力・低コスト育苗	イチゴチーム	佐賀県、長崎県、九沖、九電等	H22～24	国庫
	2)	作期分化に対応した省力育苗方法				
	(2)	低温処理育苗を利用した作型前進技術	イチゴチーム	佐賀県、長崎県、九沖、九電等	H22～24	国庫
	イ	先しばり果発生要因の解明	〃	〃	〃	〃
	(3)	マルチ後定植等の省力化技術における花芽分化促進方法	〃	〃	〃	〃
	(4)	現地実証	〃	〃	〃	〃

試験研究課題名 I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目	担当	連携機関	研究期間	予算区分
7 大分イチゴのブランド化を図るための「大分3号」の高品質、収量安定技術の開発				
2) 作型前進化、出荷標準化技術の確立				
(1) 低温処理技術の利用による年内収量確保技術	イチゴチーム		H23～24	県単
8 安全生産技術に対する研究				
1) 普通作物の病害虫防除対策				
(1) 水稲病害虫防除の効率化、体系化				
ア 水稲・大豆害虫の個別防除効果試験	病害虫チーム	豊肥振興局	H22～24	委託
2) 野菜類病害虫に対する薬剤選定				
(1) オオバにおける現地実証試験	病害虫チーム	中部振興局	H22～24	県単
(2) ネギ類病害に対する薬剤選定	〃	北部振興局	H22～24	県単一部委託
(3) ネギ類の害虫防除対策	〃	北部振興局	H22～24	県単一部委託
(4) その他野菜病害虫の個別防除効果試験	〃	中部振興局	H22～24	県単一部委託
9 有機農業技術支援				
1) 水稲に関する栽培技術支援				
(2) 水稲における実態調査				
ア 病害虫に関する実態調査	病害虫チーム	水田G、各振興局	H21～23	県単
イ 水稲栽培技術の検証	〃	〃	H23～24	県単
2) 野菜に関する栽培技術支援				
(2) 病害虫防除技術の検証及び開発				
ア サトイモ	病害虫チーム	土壌・環境チーム、各振興局	H22～24	県単
イ ダイコン、ホウレンソウ	〃	〃	〃	〃
ウ 畑作レタス	〃	〃	〃	〃
エ ニンジン	〃	〃	〃	〃
10 有機農業適応技術の検証と品質への影響評価				
1) 現地実態調査	土壌・環境チーム		H22～24	県単
2) 緑肥作物等を利用した抑草技術	〃		〃	〃
3) 有機栽培（野菜）が土壌微生物相に与える影響	〃		〃	〃
4) 野菜の内容成分と食味への影響調査	〃		〃	〃
5) 有機栽培マニュアル策定に向けた施肥方法の検討	〃		〃	〃
11 園芸戦略品目の総合的土壌管理手法の確立				
1) 土壌物理性の診断法検討				
(1) トマト、(2) ピーマン、(3) 小ネギ、(4) ニラ	土壌・環境チーム	関係振興局	H21～24	県単
2) 有機物の診断方法検討				
(1) 肥料養分の迅速診断技術	土壌・環境チーム		H21～24	県単

試験研究課題名		担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題	1 中課題	1) 小課題	(1) 試験項目		
12	白ネギの地域別優良品種・作型開発と肥料高騰に対応した施肥体系の確立				
	1) 収穫期別の品種・作型設定	ネギ類チー ム		H21～23	県単
	2) 中間地での5～6月収穫の品種・抽台回避技術の確立				
	(1) 晩抽性品種の播種時期(定植時期)と花芽分化及び抽台開始時期	ネギ類チー ム	豊肥振興局	H21～23	県単
	3) 肥料(リン酸、カリ)価格高騰を考慮した施肥技術の確立	〃		〃	〃
13	ネギ類における高温期の生態反応と制御技術の確立				
	1) 高温期のハウス内における作業環境、生育環境改善法と評価				
	(1) 遮光方法と機能性フィルムの組み合わせによる品質向上	ネギ類チー ム		H21～23	県単
	2) ニラ、小ネギの環境要因に対する対ストレス強度と生態変化の解明	〃		〃	〃
14	おおいたニラの周年多収穫、高品質化と鮮度保持技術の確立				
	1) タフボーイの栽培技術の確立				
	(1) 品種特性の解明	ネギ類チー ム		H21～23	県単
	(2) 化学肥料低減技術	〃	土壌・環境 チーム	〃	〃
	2) 鮮度保持技術の確立	〃	産業科学技 術センター	〃	〃
15	病虫害発生予察事業				
	2) 発生予察技術支援対策				
	(1) ウイルス保毒虫、薬剤抵抗性害虫の検定	病虫害チー ム	各振興局	H22～24	県単一部国 庫
16	農薬残留特殊調査(マイナー作物への登録拡大)	〃	ブランド推 進課、関係 振興局	H22～24	県単、一部 国庫
17	「おおいた茶」ブランド確立に向けた被覆栽培技術				
	1) 品種に応じた被覆栽培技術	茶業チー ム		H20～23	県単
	2) 施肥方法の改善による生葉品質の向上	〃		〃	〃
	3) 県内茶園の実態把握(現地実証)	〃		〃	〃
	4) 栄養系適応性検定試験	茶業チー ム	(独)野茶 研、各県茶 試験場	長期	県単

試験研究課題名 I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目	担当	連携機関	研究期間	予算区分
③力強い担い手を育成するための技術開発				
18 新需要に対応した新たな茶生産技術の確立				
1) 既存園における高位安定生産のための整・剪枝技術の確立				
(1) 秋・春整枝時期による作期分散技術	茶業チーム		H19～24	県単
(3) 主要品種の秋摘み茶生産技術	〃		〃	〃
2) ドリンク茶等新規造成茶園における新品種の安定多収技術の確立				
(1) 多収品種の施肥効率の改善	茶業チーム	中部振興局、実需者	H19～24	県単
(2) 新植茶園の気象データの収集	〃	中部振興局	〃	〃
④地球温暖化・環境対策等の技術開発				
19 チャの難防除害虫の効率的な防除技術の確立				
1) 難防除害虫に対する発生予測と防除技術の確立				
(1) チャトゲコナジラムの発生予測と防除技術の確立				
ア 発生消長調査	茶業チーム	東部振興局	H23～25	県単
イ 防除薬剤、防除時期の検討	〃	〃	〃	県単一部委託
(2) クワシロカイガラムシのふ化予測技術の確立				
ア 茶園内での気温とふ化率の変化	茶業チーム	東部、北部、中部、豊肥振興局	H23～25	県単
イ 現地茶園温度データ採取	〃	〃	〃	〃
2) 越冬害虫の密度低減技術の確立				
(1) 秋期防除・せん枝によるチャノホソが越冬密度低減技術	茶業チーム		H23～25	県単
(2) 秋期防除・せん枝によるウスミドリカスミガメ越冬密度低減技術	〃		〃	〃
3) 薬剤感受性低下に対応した防除技術の確立				
(2) カンザワハダニに対する各種薬剤の検定	茶業チーム		H23～25	県単
20 ピーマン安全安心栽培技術の開発				
1) ピーマンうどんこ病に対する防除技術の確立				
(1) 発生生態の解明	病害虫チーム	中部振興局、広域普及指導班、JAおおいた	H21～23	県単
(2) 防除技術の確立	〃	〃	〃	〃
2) GAP手法に基づくピーマン腐敗果防止技術の開発				
(1) 腐敗果発生の要因解明	〃	トマト・ピーマンチーム、広域普及指導班、園芸振興室、プラント推進課、各振興局、JAおおいた、JA全農おおいた	H21～23	〃
(2) GAP手法に基づくピーマン腐敗果防止技術の実践	〃	〃	〃	〃
3) 防除技術の確立				
(1) 夏秋ピーマンにおける現地実証試験				
ア 天敵資材を用いた現地実証試験	病害虫チーム	トマト・ピーマンチーム、研究普及課、広域普及指導班、豊肥・西部振興局、JAおおいた	H21～23	県単

試験研究課題名 I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目	担当	連携機関	研究期間	予算区分
イ タバコガの現地実態調査	〃	トマト・ピーマンチーム、研究普及課、広域普及指導班、中部・豊肥・西部振興局、JAおおい	H21～26	県単一部国庫
21 高温基調下での気象変化に対応したトマトの安定出荷技術				
1) 生理障害軽減のための気象状況(予測)を考慮した灌水技術				
(1) 生理障害回避のための要因分析(夏秋地帯)(水管理)	トマト・ピーマンチーム		H23～25	県単
(2) 生理障害回避のための要因分析(夏秋地帯) (赤採りトマト裂果対策)	〃		〃	〃
2) 出荷量平準化技術と出荷予測システムの開発				
(1) 前期作型(半促成) + 後期作型(抑制) 技術の確立	トマト・ピーマンチーム		H23～25	県単
(2) 出荷予測のための条件設定	〃	豊肥振興局	〃	〃
3) 一段密植栽培における出荷平準化技術				
(1) 高温期の着果安定	トマト・ピーマンチーム		H23～25	県単
(2) 栽培ベットの改良	〃		〃	〃
22 夏秋ピーマンにおけるe-naおおい安定生産技術の確立				
1) 有望品種選定	トマト・ピーマンチーム	病害虫チーム	H21～23	県単
2) 尻腐れ果軽減技術	〃	南九州化学工業(株)、病害虫チーム、土壌・環境チーム	〃	〃
3) -1 タバコガ軽減技術(LED)	〃	(株) ぎっくらく	〃	〃
3) -2 タバコガ軽減技術(防虫ネット)	〃	病害虫チーム	〃	〃
23 環境負荷を低減する低コスト施肥技術の開発				
1) 土壌由来温室効果ガス・土壌炭素調査事業	土壌・環境チーム	関係振興局、家畜衛生飼料室	H20～24	国庫委託(一部県単)
4) 生理障害抑制技術構築のための新たな土壌診断技術	〃	中央農研、九州大	H21～23	国庫
II 研究を支える基礎調査と優良種苗等供給体制の確立				
イチゴのウイルスフリー苗の育成	イチゴチーム	病害虫チーム	長期	県単
カンショの茎頂培養によるウイルスフリー苗とサトイモ優良種苗保存育成	〃	ネギ類チーム	〃	〃
カンショの品種選定	ネギ類チーム	九州沖縄農業研究センター	〃	〃

2. 研究成果の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

刊行物誌名	刊行年月日	項数	部数
大分県農林水産研究指導センター特別研究報告 (農業研究部編) 第1号	H23. 3. 31	49	150
大分県農林水産研究指導センター研究報告 (農業研究部編) 第2号	H24. 3. 31	68	150
平成23年度植物防疫事業成績書	H24. 3. 31	60	150

(2) 学会誌、専門誌等への投稿

執筆者	論文名	掲載誌名	巻(号)	掲載項
岡崎真一郎・和田志乃・湯川淳一	ダイズ子実の被害形状と程度を決定するミナミアオカメムシの吸汁影響力における雌雄および齢期間差異	九州病害虫研究研究会報	57	102-103
玉嶋勝範	大分県におけるモモンクイガの発生時期の再検討	九州病害虫研究研究会報	57	85
小野元治・武政彰・和田志乃	フィプロニル剤のイネクロカメムシ成虫に対する密度抑制効果	九州病害虫研究研究会報	57	87
飯田裕一郎・窪田昌春・雨川公洋	トマト葉かび病菌の寄生性分化機構	植物防疫	65	720-723
岡崎真一郎・雨川公洋・玉嶋勝範・桃下光敏	夏秋ピーマンにおける硫黄粉剤畝上散布とスワルスキーカブリダニ放飼との併用によるIPM体系	日本応用動物昆虫学会大会講演要旨	56	3
和田志乃・岡崎真一郎・小野元治	フェロモントラップを利用したミナミアオカメムシの発生予察法の検討	日本応用動物昆虫学会大会講演要旨	56	17
上島慧里子・玉嶋勝範・祖田嘉教・山崎修一・岡崎真一郎	防虫ネット被覆によるタバコガ類の被害抑制効果とそのコスト試算	日本応用動物昆虫学会大会講演要旨	56	19
山崎修一・雨川公洋・玉嶋勝範・岡崎真一郎	ピーマン軟腐病の伝染にはタバコガとトウヨウクキイエバエが関与する	日本植物病理学会九州部会講演会講演要旨	—	1
雨川公洋・山崎修一・祖田嘉教・大坪亮介・山下大輔・岡崎真一郎	ピーマン軟腐病の防除にはタバコガの防除が有効である	日本植物病理学会九州部会講演会講演要旨	—	1
雨川公洋・山崎修一	硫黄粉剤の畝上散布によるピーマンうどんこ病の防除効果	日本植物病理学会報	77	35
山崎修一・雨川公洋	ハエ類とエアロゾルはピーマン軟腐病の伝染に関与するのか？	日本植物病理学会報	77	38
Yamasaki, S. Okazaki, S. and Okuda, M.	Temporal and spatial dispersal of Melon yellow spot virus in cucumber greenhouses and evaluation of weeds as infection sources.	Eur. J. Plant Pathol.	132	169-177
山崎修一	ネギ軟腐病に対するプロベナゾール剤の効果的な散布体系	植物防疫	65	323-326

執筆者	論文名	掲載誌名	巻(号)	掲載項
Yamasaki, S., Sakai, J., Fuji, S., Emoto, K., Kamisoyama, S., Ohshima, K. and Hanada, K.	Comparisons among isolates of Sweet potato feathery mottle virus using complete genomic RNA sequences.	Arch. Virol.	155	795-800
山崎修一・雨川公洋・満塩和昭・中西善裕・吉松英明	ネギ軟腐病に対するプロベナゾール剤の効果的な散布体系について.	九病虫研報	56	1-8
山崎修一	弱毒ウイルスによるサツマイモ帯状粗皮病の防除技術の開発	植物防疫	65	18-22
山崎修一・雨川公洋、他	市場病害としてのピーマン軟腐病の発生と伝染経路について	日植病報	76	212
安部貞昭・佐野雅俊・戸井田雄一・佐藤如・豊田朋美・江藤真美子	イチゴ‘さがほのか’に発生する先しばり果(仮称)と栽培要因の関係	園芸学研究	第11巻別冊1	396
佐藤如、安部貞昭、戸井田雄一、吉田佳子	イチゴ‘さがほのか’‘大分3号’の果実成熟積算温度	園芸学研究	第10巻別冊2	146
戸井田雄一、佐野雅俊、安部貞昭、佐藤如	大分方式Y型高設栽培における液肥給液量がさがほのかの葉柄、排液及び土壌溶液中硝酸態窒素濃度に及ぼす影響	九州農業研究発表会専門部会発表要旨集	第74回	150

(3) 研究会、学会等での発表

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
H22. 4. 18-20	平成22年度日本植物病理学会	山崎修一、雨川公洋、他	市場病害としてのピーマン軟腐病の発生と伝染経路について
H22. 11. 10	第80回九州病害虫研究会秋季大会	山崎修一、雨川公洋	ハエ類とエアロゾルはピーマン軟腐病の伝染に関与するのか?
H23. 8. 26	平成23年度九州沖縄農業研究発表会 野菜花き部会	戸井田雄一	大分方式Y型高設栽培における液肥給液量がさがほのかの葉柄、排液及び土壌溶液中硝酸態窒素濃度に及ぼす影響
H23. 8. 26	平成23年度九州沖縄農業研究発表会 野菜花き部会	木村真美	気温予測を利用した夏秋トマトの裂果軽減技術
H23. 8. 26	平成23年度九州沖縄農業研究発表会 野菜花き部会	手嶋康人	冬ニラ株養成中の低温遭遇時間及び加温の有無が生育、収量に及ぼす影響
H23. 9. 4	平成23年度日本昆虫学会九州支部例会	山崎修一	ピーマン軟腐病の伝染環とタバコガおよびハエの関与について
H23. 9. 25	園芸学会平成23年秋季大会	佐藤如	イチゴ‘さがほのか’‘大分3号’の果実成熟積算温度
H23. 10. 25	日本有機農業学会	山野秀真	有機栽培が土壌微生物多様性に与える影響
H23. 11. 9	第82回九州病害虫研究会秋季大会	雨川公洋・山崎修一・祖田嘉教・大坪亮介・山下大輔・岡崎真一郎	ピーマン軟腐病の防除にはタバコガの防除が有効である

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
H23. 11. 9	第82回九州病害虫研究会秋季大会	山崎修一・雨川公洋・玉嶋勝範・岡崎真一郎	ピーマン軟腐病の伝染にはタバコガとトウヨウクキエバエが関与する
H23. 11. 9	第82回九州病害虫研究会秋季大会	小野元治	大分県内のニラで採集されたネダニ類の薬剤感受性
H24. 2. 2	第83回九州病害虫研究会春季大会	雨川公洋・祖田嘉教・山崎修一	ピーマンうどんこ病に対する硫黄粉剤の畝上散布の散布間隔およびハウスの形状が防除効果に及ぼす影響
H24. 2. 2	第83回九州病害虫研究会春季大会	祖田嘉教、雨川公洋他	ピーマン果実を加害する鱗翅目による軟腐病の伝搬について
H24. 2. 2	第83回九州病害虫研究会春季大会	岡本 潤	大分県の有機栽培水田における主要害虫および主要天敵の発生状況
H24. 3. 28	第56回日本応用動物昆虫学会	岡崎真一郎・雨川公洋・玉嶋勝範他	夏秋ピーマンにおける硫黄粉剤畝上散布とスワルスキーカブリダニ放飼との併用によるIPM体系
H24. 3. 28	第56回日本応用動物昆虫学会福岡大会	和田志乃、岡崎真一郎、小野元治	フェロモントラップを利用したミナミアオカメムシの発生予察法の検討
H24. 3. 28	第56回日本応用動物昆虫学会福岡大会	上島慧里子、玉嶋勝範他	防虫ネット被覆によるタバコガ類の被害抑制効果とそのコスト試算
H24. 3. 28	園芸学会平成24年春季大会	安部貞昭	イチゴ‘さがほのか’に発生する先しぼり果(仮称)と栽培要因の関係

(4) 研究成果発表会等

発表会の名称	開催年月日	開催場所	発表課題数	参加者数
平成22年度九州・沖縄地区植物防疫関係者研修会	H23. 2. 17-18	大分市	2	60
佐賀県野菜病害虫の防除に関する研修会	H23. 6. 29	佐賀市	1	150
平成23年度農林水産業現地研究成果発表会	H24. 2. 7	豊後大野市 エイトピアおおの	2	300
土壌肥料・病害虫に関する研究会	H24. 2. 29	きのこセンター	2	200
農林水産研究指導センター研究紹介	H24. 3. 5	大分文化会館	1	130

3. 研究成果の普及、技術指導

(1) 講習会、研修会等の開催

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
H23. 4. 12	JGAP研修会	現地（耶馬溪・豊後大野）	15	おおいた茶グリーン推進協議会
H23. 5. 26	みつば養液栽培研修会	大分市	16	中部振興局、大分市ミツバ部会
H23. 5. 31	ピーマン生産者研修会	JAおおいた野津地域本部	80	中部振興局
H23. 6. 1	台切り研修会	豊後大野市千歳町	20	大分県茶業協会
H23. 6. 2	耶馬溪一番茶査定	中津市耶馬溪町	20	耶馬溪製茶
H23. 7. 8	大分県無人ヘリコプター所有者及び運営組織等連絡協議会	産業科学センター	50	おおいたブランド推進課
H23. 7. 14	大分県園芸技術者協議会イチゴ研修会	豊後大野庁舎	40	大分県園芸技術者協議会
H23. 7. 21	耶馬溪二番茶査定	中津市耶馬溪町	20	耶馬溪製茶
H23. 7. 22	いちご生産者協議会ブロック別研修会	佐伯市	50	大分県食料・農業・農村振興協議会
H23. 7. 26	イチゴブロック別研修会	玖珠町	50	野菜生産者協議会
H23. 7. 26	いちご生産者協議会ブロック別研修会	玖珠町	30	大分県食料・農業・農村振興協議会
H23. 7. 27	高糖度トマト1段密植栽培技術交流会	農業研究部	13	園芸振興室
H23. 7. 29	イチゴブロック別研修会	杵築市	100	野菜生産者協議会
H23. 7. 29	いちご生産者協議会ブロック別研修会	杵築市	90	大分県食料・農業・農村振興協議会
H23. 8. 5	佐伯市本匠茶講習会	佐伯市本匠	15	佐伯市
H23. 8. 9	茶業青年会紅茶加工研修	農業研究部	21	日本茶インストラクター協会大分県支部
H23. 8. 18	ピーマン研修会	臼杵市、豊後大野市	27	園芸技術者協議会
H23. 8. 23	専門能力強化研修（土壌肥料基礎）	豊後大野市	13	研究普及課
H23. 8. 30	第43回大分県茶品評会審査会	農業研究部	10	大分県茶業協会
H23. 9. 22	クワシロカイガラムシ防除対策研修	農業研究部	8	広域普及指導班
H23. 9. 29	専門能力強化研修（土壌肥料応用）	豊後大野市	12	研究普及課
H23. 10. 26	大分県園芸技術者協議会にら研修会	産業科学技術センター	25	
H23. 10. 27	大分県園芸技術者協議会イチゴ研修会	豊後大野庁舎	40	大分県園芸技術者協議会
H23. 10. 28	茶業青年茶鑑定技術研修	農業研究部	8	
H23. 11. 9	いちご生産者協議会研修会	農業文化公園	120	大分県食料・農業・農村振興協議会
H23. 11. 28	ピーマン土壌断面調査研修会	臼杵市、豊後大野市	15	園芸振興室
H23. 11. 29	ドリンク法人研修会	杵築市山香町	20	県内ドリンク茶法人

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
H23. 12. 7	トマト部会茨支部総会（試験結果報告）	竹田市	100	豊肥振興局、みどり地域本部
H23. 12. 12	施肥防除研修会	農業文化公園	150	おおいたブランド推進課
H23. 12. 12	平成23年度施肥防除研修会	杵築市		全農おおいた
H23. 12. 21	ピーマン研修会	豊後大野市	20	園芸技術者協議会
H23. 12. 21	ピーマン栽培技術研修会	豊後大野市	15	園芸技術者協議会
H23. 12. 22	大分県園芸技術者協議会白ネギ研修会	花きグループ	20	
H23. 12. 22	被覆栽培研修会	農業研究部	10	県内生産者
H24. 1. 17	白ネギ生産者研修会	豊後高田市	25	
H24. 1. 24	トマト栽培技術研修会	竹田市	130	野菜生産者協議会トマト部会
H24. 2. 6	作物プロジェクト研修	宇佐市	15	水田農業G
H24. 2. 14	農業指導士認定研修	産業科学技術センター	100	おおいたブランド推進課
H24. 2. 16	平成23年度九州・沖縄地区植物防疫関係者研修会 チャトゲコナジラミの発生状況と防除対策について（大分県の事例）	福岡県福岡市	56	九州農政局、九州・沖縄地区病害虫防除所職員連絡協議会
H24. 2. 27	ピーマン生産部会研修会	豊後大野市	200	大分県ピーマン技術者協議会
H24. 2. 27	ピーマン栽培技術研修会	豊後大野市	185	野菜生産者協議会ピーマン部会
H24. 2. 28	点滴かん水施肥研修会	場内、現地（臼杵市）	9	伊藤園農業技術部
H24. 2. 29	土壌肥料・病害虫研究会	豊後大野市	200	研究普及課、肥料植物防疫協会
H24. 3. 9	豊後大野市農業青年研修会	豊後大野市	40	豊肥振興局、備後大野市、JA

（2）受入研修

①長期研修受け入れ なし

②短期研修及び視察対応

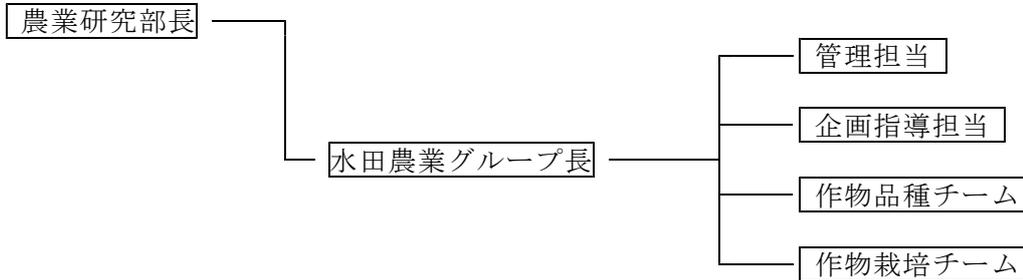
対象者	件数	受入人数
生産者	12	175
団体等職員	3	4
普及指導員	34	82
学生	14	6
海外研修者	1	3
その他	7	39
計	71	309

(3) 指導・研修プロジェクトの実証

課題名	目的	現地実証等の概要
ミナミアオカメムシを含めた大豆吸実性カメムシ類に対する防除対策の確立	大豆カメムシ類に対する防除体系の普及	ミナミアオカメムシを中心としたカメムシ類に有効な薬剤による体系防除の効果実証

Ⅱ-2 水田農業グループ

(1) 組織



(2) 職員配置状況

組織	職 種		技師	事務補佐	計	備 考
	事務	技術				
グループ長		1			1	
管理担当	4			1	5	
企画指導担当		2			2	広域普及指導員 1
作物品種チーム		4	1		5	
作物栽培チーム		3	3		6	
計	4	10	4	1	19	

(3) 業 務

- ①水田農業の確立に関する試験研究
- ②水稲・麦・大豆の新品種育成及び栽培技術改善
- ③水稲・麦・大豆優良種子配布事業
- ④米・麦・大豆の安全安心技術に関する試験研究
- ⑤気象情報及び技術情報の管理と情報発信

1. 平成23年度試験研究課題

試験研究課題名		担 当	試験期間
I 大課題	1 中課題		
I	「The・おおい」ブランドを支える技術の開発と支援		
1	ブランド化のための技術開発		
1)	大分ブランド確立のための焼耐用大麦品種の育成		作物品種チーム H17～26
2)	水稲・麦・大豆の品種選定		作物品種チーム H22～24
2	マーケット起点のものづくりを支える技術開発		
3)	有機農業適応技術の検証と品質への影響評価		作物栽培チーム H22～24
	(1)水稲に関する栽培支援技術		
3	力強い担い手を育成するための技術開発		
4)	地下水水位制御システム (FOEAS) を用いた稲・麦・大豆の生産性向上と輪作体系の構築		作物栽培チーム H23 (予備試験)
4	地球温暖化・環境対策のための技術開発		
5)	地球温暖化に対応した高温登熟耐性に優れる水稲早生品種の選定		作物品種チーム H20～24
5	地球資源の活用と省エネルギーの技術開発		
6)	飼料米の低コスト・高タンパク・超多収栽培法の確立		作物栽培チーム H21～23
II	研究を支える基礎調査と優良種苗等供給体制の確立		
7)	主要農作物等種子対策事業		作物栽培チーム H22～24
	(1) 稲、麦、大豆原種育成及び特別増殖圃設置事業		
	(2) 稲、麦、大豆原種生産		

2. 研究成果の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

刊行物誌名	刊行年月日	項数	部数
水田夏作試験成績書	H23. 4. 6	167	C D版50
水田冬作試験成績書	H23. 10. 31	74	C D版50
大分県大豆栽培技術指針	H24. 3. 26	46	300

(2) 学会誌、専門誌等への投稿 なし

(3) 研究会、学会等での発表 なし

(4) 研究成果発表会等

発表会の名称	開催年月日	開催場所	発表課題数	参加者数
現地研究成果発表会	H24. 2. 7	エイトピアおおの	1	300

3. 研究成果の普及、技術指導

(1) 講習会、研修会等の開催

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
H23. 4. 25	つや姫栽培研修	竹田市	30	豊肥振興局
H23. 5. 12	畦畔管理道造成研修	水田農業グループ	30	集落・水田対策室
H23. 5. 12	つや姫栽培研修	北部振興局	60	集落・水田対策室
H23. 7. 8	環境保全型農業研修	農業文化公園	7	農業大学校
H23. 7. 26	つや姫栽培研修会	豊肥振興局	24	豊肥振興局
H23. 8. 18	作物担当普及員プロジェクト研修	水田農業グループ	35	集落・水田対策室
H23. 9. 1	つや姫栽培研修会	安心院	50	北部振興局
H23. 10. 5	集落営農組織オペレーター研修	水田農業グループ	60	北部振興局
H23. 10. 19	S G S 調整研修	水田農業グループ	25	畜産研究部
H23. 12. 14	つや姫栽培研修会	杵築市	30	東部振興局
H23. 12. 15	つや姫栽培研修会	宇佐市安心院	30	北部振興局
H23. 12. 15	つや姫栽培研修会	竹田市	45	豊肥振興局
H24. 1. 30	つや姫栽培研修会	豊後高田市	15	北部振興局
H24. 2. 2	畦畔管理道研修会	豊後高田市	20	北部振興局
H24. 2. 6	作物担当普及員プロジェクト研修	水田農業グループ	24	集落・水田対策室

(2) 受入研修

①長期研修受け入れ なし

②短期研修及び視察対応

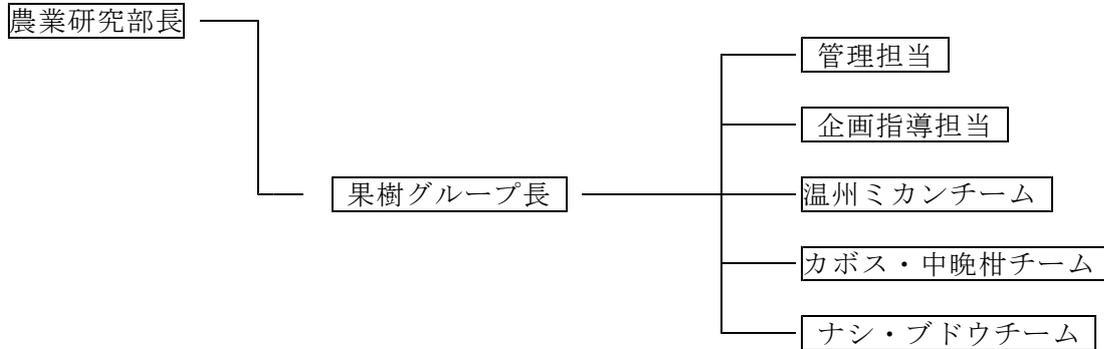
対象者	件数	受入人数
団体等職員	1	35
普及指導員	8	22
学生	1	7
その他	1	10
つや姫視察者	5	90
計	16	164

(3) 指導・研修プロジェクトの実証

課題名	目的	現地実証等の概要
水稲新品種「つや姫」大規模現地実証(つや姫PT)	大規模実証圃を設置し、各地域の栽培特性を把握するとともに、現地普及を図る	県下11地区に1ha規模の栽培実証圃13圃場を設置し、実証展示を行うとともに、栽培講習会を開催した。
作業管理道の設置	新しく開発された管理機を使った畦畔管理道の造成方法の実証を行う	県下11箇所、総延長900m超の造成を行った。

Ⅱ-3 果樹グループ

(1) 組織



(2) 職員配置状況

組織 \ 職種	職員		技師	労務技師	業務技師	事務補佐	計	備考
	事務	技術						
グループ長		1					1	広域普及指導員 2
管理担当	1					1	2	
企画指導担当		3					3	
温州ミカンチーム		4		1	1		6	
カボス・中晩柑チーム		4		1			5	
ナシ・ブドウチーム		5	3				8	
計	1	17	3	2	1	1	25	

(3) 業務

- ① 温州ミカンの品種に関する試験研究
- ② 温州ミカンの露地栽培に関する試験研究
- ③ ハウスミカンに関する試験研究
- ④ 施設中晩柑に関する試験研究
- ⑤ カンキツの土壌肥料に関する試験研究
- ⑥ カンキツの病害虫に関する試験研究
- ⑦ カンキツの品種に関する試験研究
- ⑧ 中晩生カンキツの露地栽培に関する試験研究
- ⑨ カンキツの病害虫に関する試験研究
- ⑩ 落葉果樹の品種に関する試験研究
- ⑪ ナシに関する試験研究
- ⑫ ブドウに関する試験研究
- ⑬ 落葉果樹の病害虫に関する試験研究

1. 平成23年度試験研究課題

試験研究課題名		担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題	1 中課題				
I ブランド化のための技術開発					
1	果樹のオリジナル品種の育成	カボス中晩柑T		22～24	県単
2	常緑果樹の品種適応性試験	温州ミカンT カボス中晩柑T		22～24	県単
3	カンキツ新品種「大分果研4号」の高品質化技術	カボス中晩柑T		21～25	県単
4	省エネ施設栽培に適するカンキツ新品種の選定と栽培技術確立	カボス中晩柑T		20～24	県単
5	落葉果樹の品種適応性試験	ナシ・ブドウT		長期	県単
6	次世代を担うナシ新品種の栽培技術の確立	ナシ・ブドウT		22～24	県単
7	ブドウ新品種「シャインマスカット」の高品質・安定生産技術	ナシ・ブドウT		21～25	県単
II マーケット起点のものづくりを支える技術開発					
8	生き残りをかけた高付加価値ミカン栽培技術	温州ミカンT		21～25	県単
9	カボスの多様な流通形態に対応する栽培・貯蔵技術	カボス中晩柑T		22～24	県単
10	現地ニーズに対応した新着花予測法の緊急確立と栽培管理への応用	温州ミカンT		22～24	県単
11	カンキツ病害虫防除並びに植物成長調節剤に関する試験	温州ミカンT カボス中晩柑T		22～24	県単
12	落葉果樹の病害虫防除並びに植物成長調節剤に関する試験	ナシ・ブドウT		23～25	県単
13	ナシの難防除病害虫の防除技術の開発	ナシ・ブドウT		21～23	県単
14	有機農業支援研究	カボス中晩柑T		22～24	県単
III 力強い担い手を育成するための技術開発					
15	ナシの大苗育苗と流線型仕立てによる早期成園化技術の確立	ナシ・ブドウT		23～25	県単
V 地域資源の活用と省エネルギーの技術開発					
16	脱石油新暖房システムと果実炭素収支に基づく省エネ施設果樹栽培	温州ミカンT	九州大	21～23	国庫
VI 研究を支える基礎調査と優良種苗等供給体制の確立					
	農業情報の提供（生態調査）	温州ミカンT カボス中晩柑T ナシ・ブドウT		長期	県単
	優良品種系統の原母樹の確保と優良穂木の供給	温州ミカンT カボス中晩柑T ナシ・ブドウT		長期	県単
	(予備試験) ワイン用ブドウ育種にかかる予備調査	ナシブドウT	三和酒類	23	県単

2. 研究成果の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

刊行物誌名	刊行年月日	項数	部数
平成22年度大分県農林水産研究指導センター果樹グループ試験研究年報CD版	H24. 3	165	200

(2) 学会誌、専門誌等への投稿

執筆者	論文名	掲載誌名	巻(号)	掲載項
河津 恵	カボス果皮の緑色を保持する長期貯蔵技術	果実日本	第66巻6号	53～56
吉田 智也	現場でできる温州ミカンの高品質果実生産のための水分管理指標	果実日本	第66巻11号	81～83

(3) 研究会、学会等での発表

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
H23. 5. 26	九州・沖縄果樹推進部会研究会	福田賢二	ナシの大苗育苗と流線型仕立による早期成園化技術
H23. 9. 7	日本生物環境工学会	矢野 拓	ウンシュウミカン果実への物質集積に関する環境生理学的研究 第4報 昼温と補光の影響
H23. 9. 7	日本生物環境工学会	矢野 拓	ハウスミカン栽培における脱石油新暖房システムの評価 ポスター発表
H23. 10. 27	平成23年度九州・中国・四国果樹普及指導員技術研究会	矢野 拓	施設果樹の省エネルギー化における現状と課題
H23. 11. 9	九州病害虫研究会	後藤美智子	大分県の施設栽培カンキツにおけるミカンキイロアザミウマの発生活長
H23. 11. 9	九州病害虫研究会	檜原 稔	カンキツにおけるスワルスキーカブリダニに対する農薬の影響
H24. 2. 1	平成23年度常緑果樹研究会	矢野 拓	自然形を基本としたハウスミカンの垣根仕立て
H24. 2. 10	大分県園芸技術研修会	福田賢二	ナシの大苗育苗と流線型仕立による早期成園化技術
H24. 2. 17	九州・沖縄地区植物防疫関係者研修会	渡邊久能	ナシ炭疽病菌に対する薬剤耐性菌検定について
H24. 3. 16	薬剤抵抗性病害虫対策検討会	渡邊久能	ストロビルリン系薬剤耐性ナシ炭疽病菌の発生について
H24. 3. 31	日本植物病理学会殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム	渡邊久能	大分県の落葉果樹における殺菌剤耐性菌の現状について

(4) 研究成果発表会等

発表会の名称	開催年月日	開催場所	発表課題数	参加者数
大分県果樹振興大会(ポスター発表)	H23. 11. 16	別府ビーコンプラザ	12	300

3. 研究成果の普及、技術指導

(1) 講習会、研修会等の開催

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
H23. 4. 28	屋根掛けデコボン栽培研修会	県南柑橘選果場	20	JAおおいた
H23. 5. 11	日田ナシ大学	日田市	80	西部振興局
H23. 5. 16	天草研修会（部会総会）	杵築選果場	20	杵築事業部
H23. 5. 25	果研4号研修会	選果場・現地	30	JAおおいた
H23. 5. 31	タロッコ現地研修会	日出町	10	別府・日出農協
H23. 6. 13	Pプラス不知火検討会	選果場	10	JAおおいた
H23. 6. 24	大分地区ミカンバエ防除対策研修会	大分市	30	大分市
H23. 6. 28	臼杵地区ミカンバエ防除対策研修会	臼杵市	15	臼杵市
H23. 6. 30	津久見市ミカンバエ防除対策研修会	津久見市	20	津久見市
H23. 7. 5	佐伯地区ミカンバエ防除対策研修会	佐伯市	20	佐伯市
H23. 7. 15	佐伯市宇目ぶどう生産者視察	ナシ・ブドウT	15	南部振興局
H23. 7. 28	庄内梨部会ナシ流線型研修	ナシ・ブドウT	15	中部振興局
H23. 8. 17	県ナシ会長会議流線型研修	ナシ・ブドウT	15	園芸振興班
H23. 8. 18	露地みかん研修会	杵築市	50	園芸振興班
H23. 8. 26	県ぶどう研究会役員研修会	ナシ・ブドウT	15	園芸振興班
H23. 9. 16	県農業大学校視察	ナシ・ブドウT	15	県立農業大学校
H23. 9. 15	天敵導入研修会（ハウスミカン）	津久見市	20	県南ハウスミカン部会
H23. 10. 13	おおいた早生栽培研修会	杵築市	30	県柑橘研究会、全農おおいた
H23. 10. 28	カボス研修	カボス・中晩柑T	30	緒方町ニューカボス生産振興部会
H23. 11. 8	ハウスみかん栽培研修会	日出町	15	別府・日出ハウスみかん研究会
H23. 11. 14	完熟デコボン研修会	カボス・中晩柑T	25	JAおおいた
H23. 11. 18	園芸技術者協議会果樹部会研修会	ナシ・ブドウT	20	園芸技術者協議会
H23. 11. 18	JA日出梨部会流線型研修	ナシ・ブドウT	15	JA別府日出
H23. 11. 24	大分県ナシ研究会研修会	日田市	100	園芸振興班
H23. 11. 25	大分県立農業高校教諭ナシ流線型研修	場内	25	宇佐産業科学高校
H23. 11. 28	大分市ミカンバエ発生対策研修会	大分市	20	大分市
H23. 12. 9	庄内梨研究同志会研修会	由布市	30	中部振興局
H23. 12. 15	日田地区シャインマスカット研修会	日田市	60	西部地区農振協議会
H23. 12. 22	県南ハウスカボス研修会	臼杵市	13	県南柑橘選果場、中部振興局
H23. 12. 26	JA大分安心院ぶどう部会生産者研究大会	宇佐市	50	JAおおいた安心院事業本部
H24. 1. 12	カンキツ品種検討会	温州ミカンT	25	園芸技術者協議会果樹部会
H24. 1. 21	ハウスみかん栽培研修会	杵築市	50	ハウスみかん研究会
H24. 1. 25	ハウスみかん省エネ栽培研修	津久見市	20	県南ハウスみかん研究会
H24. 2. 3	柑橘剪定研修会	温州ミカンT	20	大分県園芸技術者協議会
H24. 2. 6	東中津果樹生産組合総会	中津市	20	東中津果樹生産組合
H24. 2. 8	ハウスみかん省エネ栽培研修	杵築市	50	ハウスみかん研究会
H24. 2. 10	県園芸技術者協議会研修会	大分市	40	園芸技術者協議会

(2) 受入研修

①長期研修受け入れ なし

②短期研修及び視察対応

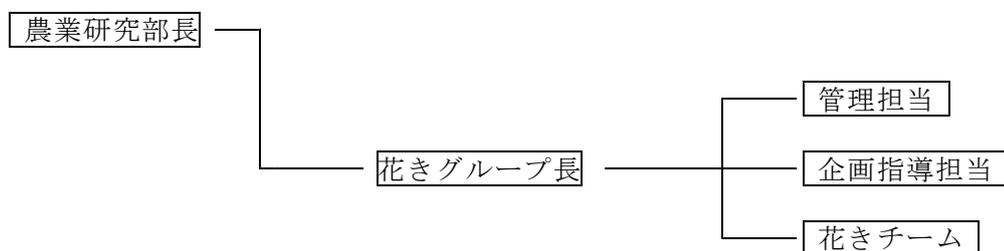
対象者	件数	受入人数
生産者	112	1,058
団体等職員	15	86
改良普及指導員（公務員）	53	122
学生	9	124
海外研修者	2	3
その他	19	68
計	210	1,461

(3) 指導・研修プロジェクトの実証

課題名	目的	現地実証等の概要
界面活性剤泡沫によるミカン二重被覆加温ハウスの省エネ技術の開発 (企画指導担当)	界面活性剤泡沫によるミカン二重被覆加温ハウスの省エネ技術」の普及を図る。	施設園芸協会のスーパーホルト新技術開発支援事業により、試験場内圃場および杵築市現地圃場において、泡被覆による省エネの実証を行った。
輸出に向けたナシ「新高」の貯蔵技術 (落葉果樹PT)	ナシ「新高」の輸出に向けた貯蔵において、果皮障害を回避するために、予措等の貯蔵技術指導を徹底する。	H23年に新設された、日田梨選果場の冷蔵庫による春節期に向けた「新高」貯蔵実証。

Ⅱ-4 花きグループ

(1) 組織



(2) 職員配置状況

組織	職 種		技師	労務技師	業務技師	事務補佐	計	備 考
	事務	技術						
グループ長		1					1	
管理担当	1		1			1	3	
企画指導担当		2					2	広域普及指導員 1 総括は企画指導担当 が兼務
花きチーム		5	2		1		8	
計	1	8	3		1	1	14	

(3) 業 務

- ①花きの栽培および病害虫に関する研究
- ②花きの研究成果の現地普及
- ③花き優良種苗の供給
- ④花き指導者、生産者に対する指導

1. 平成23年度試験研究課題

試験研究課題名	担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目				
I 産地間競争に打ち勝ち、もうかる農林水産業を実現するための研究開発				
1 ブランド化のための技術開発				
1) キクの育種と優良系統の選抜				
(1) 夏秋輪ギク交配系統の選抜	花きチーム		22～24	県単
(2) 夏秋小ギク交配系統の選抜	花きチーム		22～24	県単
(3) 主力白色品種の系統選抜	花きチーム		22～24	県単
2) ヤマジノギクの育種と安定供給に向けた栽培技術の確立				
(1) 新しい系統の作出	花きチーム		22～24	県単
(2) 出荷期間拡大のための技術確立	花きチーム		22～24	県単
3) ホオズキの量販需要対応技術開発と生理解明				
(1) 量販需要対応技術開発	花きチーム		23～25	県単
(2) 生理解明	花きチーム		23～25	県単
4) 大分県オリジナルトルコギキョウの育種と栽培技術の確立				
(1) 優良F1系統の育成	花きチーム		23～25	県単
(2) 優良オリジナル品種の作型適応性	花きチーム		23～25	県単
2 マーケット起点のものづくりを支える技術開発				
1) 花き類の新病害虫の同定と環境保全型防除技術の確立				
(1) 病害虫診断と新病害虫の同定	花きチーム	病害虫チーム	22～24	県単
(2) 病害虫の効率的防除法の確立	花きチーム	病害虫チーム	22～24	県単
(3) 環境保全型防除技術の確立	花きチーム	病害虫チーム	22～24	県単
2) 花き類の日持ち性の評価と鮮度保持対策				
(1) 花き類の日持ち性の評価	花きチーム		23～25	県単
(2) 花き類の鮮度保持対策	花きチーム		23～25	県単
3 力強い担い手を育成するための技術開発				
1) バラの低コスト栽培技術の確立				
(1) 低温開花性品種の選定	花きチーム		21～23	県単
(2) 密植栽培技術の確立	花きチーム		21～23	県単
II 研究を支える基礎調査と優良種苗等供給体制の確立				
〈優良種苗供給〉				
1 ヤマジノギク（親株配布）	花きチーム			県単
2 オリジナルトルコギキョウ（種子配布）	花きチーム			県単

2. 研究成果の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

刊行物誌名	刊行年月日	項数	部数
パンフレット	平成24年3月	6	3,000

(2) 学会誌、専門誌への投稿

執筆者	論文名	掲載誌名	巻(号)	掲載項
甲斐千代	ホオズキの収穫後植物残渣の効果的な処理法	九州農業研究発表会発表要旨集	第74回	162
吉松修治	トルコギキョウの変温管理が日持ちに与える影響	九州沖縄農業研究成果情報	第26号	207

(3) 研究会、学会等での発表

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
H23.8.26	九州農業研究発表会	甲斐千代	ホオズキの収穫後植物残渣の効果的な処理法

(4) 研究成果発表会等 なし

3. 研究成果の普及、技術指導

開催年月日	講習会、研究会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
H23.5.19	ハボタン栽培講習会	竹田市	10	
H23.6.9	短茎ギク研修会	杵築市	11	
H23.6.21	趣味の園芸	花きグループ	22	
H23.7.4	ハボタン栽培講習会	竹田市	35	
H23.7.21	鉢物生産者協議会	花きグループ	28	
H23.7.22	ホオズキ密植栽培研修会	豊後高田市	33	
H23.10.13	苗物生産者協議会研修会	国東市	40	
H23.10.24	南部トルコギキョウ研修会	佐伯市	21	
H23.11.22	園芸技術者協議会研修会(ヤマジ)	花きグループ	40	
H23.11.22	ストック栽培講習会	国東市	23	
H23.12.5	ハボタン栽培講習会	花きグループ	24	
H23.12.16	苗物生産者研修会	花きグループ	33	
H23.12.20	趣味の園芸	花きグループ	33	
H23.12.22	ホオズキ研修会	花きグループ	45	
H24.1.11	短茎ギク研修会	杵築市	13	
H24.1.12	園芸技術者協議会研修会(キク)	花きグループ	46	
H24.1.13	鉢物・苗物生産者研修会	花きグループ	31	
H24.1.13	チェリービー栽培講習会	花きグループ	10	
H24.1.27	短茎ギク研修会	杵築市	12	
H24.1.27	花壇苗・鉢物生産者協議会	花きグループ	23	
H24.2.3	鉢物・苗物生産者研修会	花きグループ	22	
H24.2.7	トルコギキョウ生産者協議会	花きグループ	38	
H24.2.16	小ギク生産者協議会	杵築市	50	
H24.2.28	趣味の園芸	花きグループ	35	
H24.3.2	チェリービー栽培講習会	花きグループ	7	
H24.3.12	短茎ギク研修会	杵築市	13	
H24.3.12	アリストロメリア土作り研修会	竹田市	25	

(2) 受入研修

①長期研修受け入れ

対象者	所属	研修内容	期間
学生1名	九州大学農学部	キク、トルコギキョウ、ヤマジノギクを中心にした花きの栽培管理について	H23. 9. 5～9. 16
学生1名	宮崎大学農学部	キク、トルコギキョウ、ホオズキを中心にした花きの栽培管理について	H24. 2. 27～3. 2

②短期受入研修及び視察対応

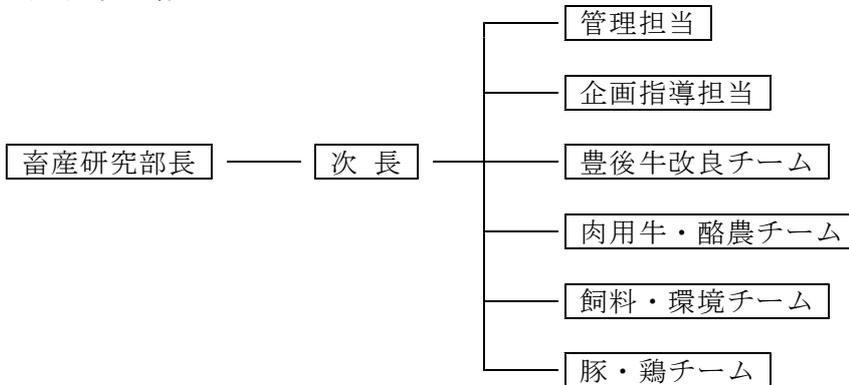
対象者	件数	受入人数
生産者	5	78
普及員指導員	1	2
学生	3	6
海外研修者	2	30
その他	21	395
計	32	511

(3) 指導・研修プロジェクトの実証

課題名	目的	現地実証等の概要
短茎ギク栽培の実証	近年、需要が高まっている草丈60cmの短茎ギク（量販店で販売されるパック花用）を、物日を中心に年4作行うための栽培技術を確立する。	（株）花畑（杵築市）が栽培面積10aの規模で実証に取り組み、年末（12月）、彼岸（3月）出しを行った。出荷先は大阪市内のパック花製造会社3社で、（株）なにわ花いちばを通して行われた。課題として、花蕾を大きくする、彼岸出しの草丈確保などが明らかになり、引き続き検討を行う。
鉢物トルコギキョウ「チェリービー」の商品化	平成23年5月に品種登録された「チェリービー」の商品化を早期に実現するため、栽培技術の確立、市場調査を行う。	高級鉢花研究会の7名が、当グループが供給したプラグ苗をもとに試作に取り組み、施肥量、培土の種類、植付け方法等について栽培実証を行った。また、市場調査として同会が「チェリービー」を市場品評会に出品し、高い評価を得ることができた。この評価を受け、ラベル作成にも取り組んだ。

Ⅱ－5 畜産研究部

(1) 組織



2) 職員配置状況

組織	職 種	職 員		技師	労務技師	業務技師	事務補佐	計	備 考
		事務	技術						
部	長		1					1	
次	長	1	1					2	
管	理 担 当	3						3	
企	画 指 導 担 当		4					4	広域普及指導員 2
豊	後牛改良チーム		6	2	6			14	広域普及指導員 1
肉	用牛・酪農チーム		5	8	2			15	
飼	料・環境チーム		4	4				8	
豚	・ 鶏 チーム		6	4	3			13	
計		4	27	18	11			60	

(3) 業 務

- ①肉用牛の改良増殖、種雄牛造成並びに精液供給
- ②肉用牛の飼養技術及び繁殖技術
- ③乳用牛の飼養技術
- ④牧草及び飼料作物の系統選抜、栽培管理・貯蔵技術、自給飼料成分分析並びに畜産環境対策
- ⑤豚の育種、飼養管理技術並びに精液供給
- ⑥家禽の育種並びに飼養管理技術

1. 平成23年度試験研究課題

試験研究課題名				担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題	1 中課題	1) 小課題	(1) 試験項目				
I	農林水産業を支える技術開発						
	1	ブランド化のための技術開発					
		(体外受精卵移植を応用した種雄牛造成)					
		(1) OPU-IVF技術を応用した種雄牛造成	改良・肉酪		H20～24	県単	
		(豊後牛DNA育種技術の開発法の検討)					
		(2) 黒毛和種飼料効率に関するゲノム解析	豊後牛改良	(社)畜産技術協会	H20～24	県単	

試験研究課題名				担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題	1 中課題	1) 小課題	(1) 試験項目				
2	マーケット起点のものづくりを支える技術開発 (「おおいた冠地どり」等鶏の改良及び飼養管理技術)			豚・鶏		H23～25	県単
	(3) 「おおいた冠地どり」の生産性等向上試験						
3	力強い担い手を育成するための技術開発 (牛の体内受精卵移植技術の確立)			豚・鶏		H22～25	県単
	(4) ウシ臍内留置型ホルモン製剤に着目した繁殖技術向上に関する研究 (牛の体外受精卵移植技術の確立)			肉用牛・酪農	青森県、秋田県、宮城県、 神奈川県、静岡県、奈良 県、京都府、徳島県	H22～H24	県単
	(5) 経膈採卵－体外受精による良品質胚生産の検討 (豚凍結精液等利用技術の確立)			改良・肉酪	神奈川県、奈良県、高知 県、山口県、宮崎県	H21～23	県単
	(6) 免疫機能に着目したブタ繁殖技術向上に関する研究 (低コスト・高品質牛肉生産技術の開発)			豚・鶏	鹿児島県、沖縄県	H22～H24	県単、受託
	(7) 子牛の育成期及び肥育期の栄養水準が黒毛和種去勢若齢肥育牛の発 育・枝肉成績に及ぼす影響			肉用牛・酪農		H21～23	県単
4	地球温暖化・環境対策等の技術開発						
5	地域資源の活用と省エネルギーの開発技術 (牛の耕作放棄地放牧技術の確立)			飼料・環境	九沖農研センター	H22～26	受託
	(8) 耕作放棄地解消後の圃場における周年放牧の確立 (未利用資源の牛への飼料化技術の確立)						
	(9) 稲発酵飼料及び焼酎粕濃縮液混合液の利用技術の確立			飼料・環境		H22～24	県単
	ア. 稲発酵粗飼料・焼酎粕濃縮液混合飼料調整方法の検討						
	イ. 肉用牛への給与技術の確立			肉用牛・酪農		H22～24	県単
	ウ. 乳用牛への給与技術の確立			肉用牛・酪農		H22～24	県単
	(未利用資源の豚への飼料化技術の確立)						
	(10) 飼料用米を利用した豚飼養技術の確立			豚・鶏	佐賀県、長崎県、熊本県	H21～23	県単、受託
	(11) 未利用資源を活用したブタ給与技術の開発 (自給飼料を利用した低コスト生乳生産技術の確立)			豚・鶏	ぶんご有機肥料(株)、(株) 環境整備産業	H22～24	県単
	(12) 飼料用米を利用した乳用牛の飼養技術の確立						
	ア. 飼料用米の貯蔵方法の確立			飼料・環境		H21～23	県単
	イ. 乳用牛への給与技術の確立			肉用牛・酪農		H21～23	県単
	(永年草地における生産性と強害雑草対策)						
	(13) 永年草地における裸地化改善と生産性向上技術の確立			飼料・環境		H21～H23	県単

試験研究課題名				担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題	1 中課題	1) 小課題	(1) 試験項目				
II 研究を支える基礎調査と優良種苗等供給体制の確立							
(優秀種雄牛の造成)							
■ (1) 種雄牛検定							
ア. 直接法				豊後牛改良		長期	県単
イ. 現場後代検定法				豊後牛改良		長期	県単
■ (2) 大分県種雄牛の産肉性に関する遺伝子領域解析及び効果検証				豊後牛改良		長期	県単
(牧草・飼料作物の優良品種・系統の選定)							
■ (3) 牧草類・飼料作物の奨励品種選定試験							
ア. とうもろこし				飼料・環境	(独)九沖農研セ、九州各県	S55～長期	県単、受託
イ. イタリアンライグラス				飼料・環境	(独)九沖農研セ、九州各県	S55～長期	県単、受託
ウ. ソルガム				飼料・環境	(独)九沖農研セ、九州各県	S55～長期	県単、受託
(系統造成豚の長期維持と改良及び優良種子豚等の供給)							
■ (4) 原種豚の改良維持及び増殖							
ア. ランドレース種の系統維持・増殖				豚・鶏		H19～長期	県単
イ. 大ヨークシャ種の改良・増殖				豚・鶏		H19～長期	県単
ウ. デュロック種の能力維持				豚・鶏		H21～長期	県単
(「おおいた冠地どり」等原種鶏の改良と優良種苗等の安定供給)							
■ (5) 原種禽の系統維持及び増殖							
ア. 「豊のしゃも」原種鶏				豚・鶏		H元～長期	
イ. 「おおいた冠地どり」原種鶏				豚・鶏		H元～長期	
ウ. 「おおいた烏骨鶏」原種鶏				豚・鶏		H元～長期	

2. 研究成果の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

刊行物誌名	刊行年月日	項数	部数
2012 大分県黒毛和種 「種雄牛」監修	H24.3.30	21	1000

(2) 学会誌、専門誌等への投稿

執筆者	論文名	掲載誌名	巻(号)	掲載項
鶴岡克彦	ヘアリーベッチを利用した飼料用トウモロコシ無農薬栽培	酪農ジャーナル	第65巻第2号	21-23
大塚 高司	大分県おもな系統とその変遷	最新 農業技術 畜産	Vol. 4	205-210
Fujita T Watanabe N 他7名	Genome-wide association study identified three major QTL for carcass weight including the PLAG1-CHCHD7 QTN for stature in Japanese Black cattle	BMC Genetics	受理済	印刷中
Watanabe N Fujita T 他6名	Distribution of allele frequencies at TTN g.231054C > T, RPL27A g.3109537C > T and AKIRIN2 c.*188G > A between Japanese Black and four other cattle breeds with differing historical selection for marbling.	BMC Res Notes.	2011	4-10
Watanabe N Fujita T 他8名	The T allele at the g.1471620G>T in the EDG1 gene associated with high marbling in Japanese Black cattle is at a low frequency in breeds not selected for marbling.	Animal Science Journal	2010 Feb;81	142-144
藤田達男	米国におけるWagyu生産、流通の現状	畜産技術	2011.10月号	40-43
藤田達男	米国におけるWagyu生産、流通の現状	大分県獣医師会会報	第22号	98-103
岡崎 哲司	ブタ精液の凍結及び融解法の開発による人工授精技術の高度化	農林水産技術研究ジャーナル	23年4月号 (Vol.34 No.4)	8-11
岡崎哲司・秋好禎一 ・菅正和・手島久智・ 島田昌之	精漿含有融解液を用いたブタ凍結精液による人工授精試験	日本養豚学会誌	48	164-168
岡崎 哲司	ブタ凍結精液による人工授精法の開発は日本養豚業を活性化する	Techno Innovation	78号(H23.4月)	50-53
岡崎 哲司	凍結精液人工授精のメリットとその利用法を自農場で確立する	月刊 養豚情報	23年6月号	14-17
<u>Tetsuji OKAZAKI</u> , Shuji YOSHIDA, Hisanori TESHIMA, and Masayuki SHIMADA	The addition of calcium ion chelator, EGTA to thawing solution improves fertilizing ability in frozen-thawed boar sperm	Animal Science Journal	26(10)	:2799-806
Fujita Y, Mihara T, <u>Okazaki T</u> , Shitanaka M, Kushino R, Ikeda C, Negishi H, Liu Z, Richards JS, Shimada M	Toll-like receptors (TLR) 2 and 4 on human sperm recognize bacterial endotoxins and mediate apoptosis.	Human Reproduction	26	2799-806
Yamashita Y, Okamoto M, Kawashima I, <u>Okazaki T</u> , Nishimura R, Gunji Y, Hishinuma M, Shimada M	Positive feedback loop between prostaglandin E2 and EGF-like factors is essential for sustainable activation of MAPK3/1 in cumulus cells during in vitro maturation of porcine cumulus oocyte complexes.	Biology of Reproduction	85	1073-82
Mihara T, Fukumoto K, <u>Okazaki T</u> , Shimada M.	Murine Sperm Expresses Toll-Like Receptor (TLR) Family that Responds to the Pathogens Released from Virus, and Decreases Fertilization Ability by the Stimuli.	Journal of Mammalian Ova Research	27	136-143
岡崎哲司	凍結精液普及のための大分モデルと精液受託凍結	月刊 養豚情報	23年12月号	12-15
岡崎 哲司	凍結精液の人工授精成績とさらなる技術発展のための取り組み	月刊 養豚の友	24年1月号	45-47
岡崎 哲司・知念 司	産子数アップのための母豚生理	月刊 養豚界	24年2月号	22-26

(3) 研究会、学会等での発表

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
H23.8.15	日本繁殖生物学会	岡崎哲司	精液凍結過程におけるウイルス除去・不活化法の検討
H23.8.24	平成23年度九州農業研究発表会	金丸英伸	センチピートグラスへの施肥効果
H23.8.24		倉原貴美	ウシ膈内留置型ホルモン製剤(PRID)を活用した過剰排卵処理
H23.8.26	日本畜産学会	岡崎哲司	人工授精に利用可能なブタ精巣上体精子の凍結融解方法
H23.10.8	養豚塾	岡崎哲司	繁殖成績アップ 雄の生理と現場で役立つ凍結精液利用のAI技術
H23.10.15	日本養豚学会	岡崎哲司	凍結精液による大規模人工授精実証試験
H23.10.29	第4回日本暖地畜産学会	岡崎哲司	多様な系統ブタの凍結精液作製とその汎用性評価
H23.10.29		鶴岡克彦	高消化性ソルガムが主な粗飼料源の発酵TMRの泌乳牛の乳生産性
H23.2.5	平成23年度日本獣医師会獣医学術学会	藤田達男	牛白血病の新しい制圧戦略 (MHC遺伝子マーカーを用いた育種戦略)
H24.3.5	沖縄県養豚振興協議会 養豚セミナー	岡崎哲司	豚凍結精液の実用化～今こそ多様な遺伝資源を保存し、実用可能な日本養豚業へ～
H24.3.29	日本畜産学会	岡崎哲司	ブタ精漿による子宮内免疫環境調節機構の解明とそれを応用した人工授精法の開発
H24.3.29	日本畜産学会	岡崎哲司	ブタ液状精液及び融解液へのOxytocin添加は繁殖成績を向上させる

(4) 研究成果発表会等

発表会の名称	開催年月日	開催場所	発表課題数	参加者数
大分県家畜保健衛生並びに畜産関係業績発表会	H23.11.22	大分県庁正庁ホール	4	100
研究紹介・新品種等の試食会	H24.3.5	大分文化会館	1	100

3. 研究成果の普及、技術指導

(1) 講習会、研修会等の開催

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
4月02日	九重町畜産後継者グループ千代山会研修会	九重町	30	
5月02日	豊後大野市清川町和牛振興会研修会	畜産研究部	35	
5月09日	竹田市肉用牛女性部連絡協議会研修会	畜産研究部	55	
5月24日	大分市和牛改良組合研修会	畜産研究部	20	
6月23日	畜産技術研修(豚・鶏)	畜産研究部	15	
7月05日	自給飼料技術研修会	畜産研究部	15	
7月06日	直接検定候補牛終了研修会	畜産研究部	20	
7月13日	玖珠町栗野地区畜産振興会研修会	畜産研究部	25	
7月14日	北部地域畜産若手の会講習会	畜産研究部	35	
7月14日	大分県家畜人工授精協会研修会	別府市	65	
7月14日	豊後大野市三重町育種改良組合研修会	畜産研究部	35	
7月22日	肉用牛改良研修会(Ⅰ)	畜産研究部	30	
7月22日	養豚研修会(Ⅰ)	畜産研究部	81	
7月22日	竹田市肉用牛生産振興プロジェクト	竹田市	35	
7月26日	九重町畜産品評会	九重町	50	
7月28日	養豚研修会(Ⅱ)	畜産研究部	11	
8月04日	カフライフ研修会	畜産研究部	8	
8月04日	株式会社まるひで肉用牛研修会	畜産研究部	2	
8月09日	国東市畜産共進会	国東市	50	
8月17日	直接検定候補牛終了立研修会	畜産研究部	35	
8月26日	玖珠郡和牛育種組合研修会	畜産研究部	35	
8月29日	東部地域畜産共進会	国東市	80	
8月31日	草地研修	畜産研究部	30	
8月31日	竹田市畜産共進会	竹田市	130	

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
9月07日	豊肥地域肉用牛振興大会	竹田市	150	
9月07日	玖珠郡畜産品評会	玖珠町	120	
9月14日	受精卵移植技術向上研修会	畜産研究部	15	
9月16日	大分地方畜産共進会	大分市	130	
10月01日	久住町畜産振興会研修会	竹田市	108	
10月01日	大分県畜産共進会（肉畜の部）	豊後大野市	120	
10月19日	飼料米調整研修会	宇佐市	37	水田Gと共催
10月22日	大分県畜産共進会（肉用牛の部）	別府市	120	
10月31日	家畜人工授精講習会	畜産研究部	13	受託研修（家畜衛生飼料室）
11月01日	公社営畜産事業現地研修会	別府市、竹田市	103	
11月02日	竹田市久住町和牛振興会研修会	竹田市	35	
11月06日	大分県畜産共進会（乳用牛の部）	大分市	100	
11月15日	九重町飯田地区青年部講習会	畜産研究部	25	
11月22日	豊後大野市朝地梨原十頭会研修会	畜産研究部	13	
11月28日	第2回おおいだ型放牧技術向上研修会		40	
11月29日	日田市天瀬経営者クラブ講習会	日田市	6	
11月30日	中津下毛肥育部会枝肉研究会	畜産研究部	8	
12月01日	九重町飯田畜産振興会研修会	畜産研究部	15	
12月08日	臼杵市野津町生産者組織研究会	畜産研究部	5	
12月09日	養豚研修Ⅰ（受託製造）	畜産研究部	38	
12月09日	東部肉用牛育種改良組合研修会	畜産研究部	36	
12月12日	酪農技術向上研修会	畜産研究部	20	
12月12日	玖珠家畜市場意見交換会	玖珠町	79	
12月15日	臼杵市肉用牛生産者研修会	畜産研究部	20	
12月22日	堆肥処理及び利用事例研修会	畜産研究部	17	
1月17日	超音波肉質診断技術研修会	畜産研究部	25	
1月24日	JA大分安心院町肉用牛生産部会研修会	畜産研究部	25	
1月25日	西部家畜人工授精師協会研修会	玖珠町	20	
1月27日	豊後牛生産女性組織連絡協議会研修会	別府市	150	
1月30日	豊後大野市朝地町畜産女性部研修会	畜産研究部	20	
2月01日	肉用牛繁殖基盤強化研修会	大分市	100	
2月14日	養豚研修会Ⅱ	大分市	22	
2月22日	佐伯市畜産婦人部研修会	畜産研究部	20	
2月24日	豊後大野市家畜人工授精師協会研修会	畜産研究部	20	
2月27日	肉用牛改良研修会（Ⅱ）	別府市	135	
3月05日	養豚セミナー	沖縄県	30	
3月13日	福岡県大川市畜産振興対策協議会研修会	畜産研究部	5	

（2）受入研修

①長期研修受け入れ

対象者	所属	研修内容	期間
生産者1名	福岡県	後継者養成研修	H23. 4. 13～ H23. 5. 12
生産者1名	玖珠町	後継者養成研修	H23. 4. 13～ H24. 3. 14
生産者1名	九重町	後継者養成研修	H23. 4. 13～ H24. 3. 14
生産者1名	竹田市	後継者養成研修	H23. 4. 13～ H24. 3. 14
学生1名	鹿子島大学農学部	肉用牛の育種改良	H23. 9. 5～ H23. 9. 9

② 短期研修及び視察対応

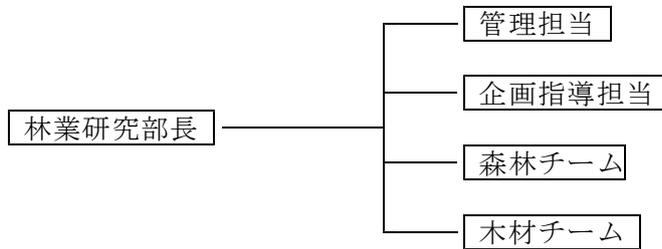
対象者	件数	受入人数
生産者	4	52
団体等職員	1	1
普及指導員	2	6
学生	8	76
海外研修者	0	0
その他	2	8
計	17	143

(3) 指導・研修プロジェクトの実証

課題名	目的	現地実証等の概要
「超音波画像診断装置」を用いた生体肉質画像診断	超音波画像診断を用いて生体肥育牛の肉質を診断し、一般出荷の飼養管理及び枝肉共励会の選抜に活用し、豊後牛のブランド確立を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第59回県肉牛枝肉共励会で14頭選抜(4・5率診断79%) ・ 第10回全国和牛能力共進会候補牛巡回(肉畜の部) ・ 現地実証 6戸(14回)の農家で現地実証
酪農家における経膈採卵－体外受精による後継牛等生産性に向けた技術支援	現地農家での経膈採卵(OPU)と性選別精液を用いた体外受精(IVF)による体外受精卵移植技術の普及	雌性判別精液による体外受精卵産子が誕生(県内第1号)
耕作放棄地解消のためのレンタカウ等の現地支援	耕作放棄地の解消及び「おおい型放牧」の普及を図る	・ 耕作放棄地解消のための3カ所にそれぞれ2頭をレンタカウ
豚凍結精液技術の現地実証	大分県で開発した豚凍結精液の技術普及	<ul style="list-style-type: none"> ・ 凍結精液譲渡本数 1,013セット ・ 豚人工授精及び凍結精液セミナー開催 ・ 現地実証 6戸(14回)の農家で現地実証

II-6 林業研究部

(1) 組織



(2) 職員配置状況

組織	職種		技師	労務技師	業務技師	計	備考
	事務	技術					
部長		1				1	
管理担当	2		1			3	
企画指導担当		3				3	広域普及指導員1
森林チーム		4			2	6	
木材チーム		6				6	
計	2	14	1		2	19	

(3) 業務

- ① 育種・育林の新技術の開発に関する試験研究
- ② 環境を守る森林整備に関する試験研究
- ③ 県産材の需要拡大に関する試験研究

1. 平成23年試験研究課題

試験研究課題名	担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目				
「The・おおいた」ブランドを支える技術の開発と支援				
ア 消費者の心をつかむ商品(もの)づくり				
IV 優良品種・系統の選定				
1 優良苗木の育成				
1) DNA分析によるスギ品質管理型林業に関する研究	森林チーム		平21~23	県単
イ 時代に対応する新たな農林水産業のしくみづくり				
VII 森林の育成と需要に応じた木材加工技術の確立				
2 スギの効率的な乾燥法の開発				
1) 大分方式乾燥による平角材の最適乾燥材生産システムの開発	木材チーム		平21~23	県単
3 県産スギ材の新たな活用法の検討				
1) 土木用県産スギ材の性能評価と開発	木材チーム		平21~23	県単
2) 県産スギ材の家具等への用途開発に関する研究	木材チーム		平22~23	県単
3) より安全で使いやすい学校家具の検証と研究	木材チーム		平22~23	県単
ウ 地域資源の活用と産業間の連携によるニュービジネスの創造				
X 新たな産業・地域連携による地域資源の活用支援				
4 資源の活用技術の検討				
1) 大径クスギ材の利用技術の開発	木材チーム		平21~23	県単
2) 竹材のくん煙処理等による耐久性向上技術に関する研究	木材チーム		平22~23	県単
エ 県民が多面的機能を共有できる農山漁村の整備				

試験研究課題名	担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目				
X II 豊かな資源を維持増進する技術の開発				
5 森林病虫獣害対策				
1) 健全な森林の維持・確保のためのスギ集団葉枯れ症の実態解明	森林チーム		平22~24	県単
2) クヌギ萌芽更新におけるシカ被害防除技術に関する研究	森林チーム		平23~25	県単
6 再造林放棄地の機能回復手法の確立				
1) 再造林放棄地の解消に向けた省力的な造林技術に関する研究	森林チーム		平21~25	県単
(1) 省力的な造林技術に関する研究				
(2) 省力的な下刈技術に関する研究				
研究分野における基礎的データ収集と優良種苗等供給体制の確立				
1) スギ花粉発生源調査事業	森林チーム		平22	受託(全林協)

2. 研究成果の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

刊行物誌名	刊行年月日	項数	部数
平成22年度林業試験場年報(第53号)	H23. 7. 15	43	300
林試だより(第73号)	H23. 9. 30	8	1,300
シカ捕獲用囲いワナ設置マニュアル	H23. 7. 1	17	500
スギの直挿し造林ー直挿し技術とその利用ー	H23. 10. 1	8	600
土木用木材の取扱マニュアル	H24. 3. 30	60	50
大分方式乾燥材サンプルファイル	H24. 1. 20	4	600

(2) 学会誌、専門誌等への投稿

執筆者	論文名	掲載誌名	巻(号)	掲載項
山田 康裕	大分県におけるスギ集団葉枯れ症の発生分布と被害木の特徴	九州森林研究	第65号	4
山本幸雄	スギ3層クロスラミナパネルを用いた簡易ハウスの開発	公立林業試験研究機関 研究成果選集	No. 9 (2011)	2

(3) 研究会、学会等での発表

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
H23. 10. 29	第67回日本森林学会九州支部研究発表会	山田 康裕	大分県におけるスギ集団葉枯れ症の発生分布と被害木の特徴
H23. 8. 26 ~27	第18回日本木材学会九州支部大会	河津 渉	スギ丸棒材の耐久性に関する研究(I)

(4) 研究成果発表会等

発表会の名称	開催年月日	開催場所	発表課題数	参加者数
平成23年度農林水産研究指導センター林業研究部研究発表会	H24. 2. 23	林業研究部	口頭発表: 5課題	70
平成23年度 農林水産研究指導センター 現地研究成果発表会	H24. 2. 7	豊後大野市 エイトピア おおの	口頭発表: 1課題	300

3. 研究成果の普及、技術指導

(1) 講習会、研修会等の開催

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
H23. 5. 31	林業全般基礎研修	大分県庁	20	大分県
H23. 6. 29	林業普及指導員資格試験研修	大分県庁	1	大分県
H23. 7. 8	優良スギ品種研修会	豊後大野市	40	大野地区林研連絡協議会
H23. 7. 8・15・22	林業技術の基礎	豊後大野市	129	農業大学校
H23. 7. 19	間伐技術講習会	由布市	20	(財) 森林ネットおおいた
H23. 7. 25	広域普及プロジェクト研修	林業研究部	15	大分県
H23. 8. 17	大分県のスギ優良品種	由布市	20	(財) 森林ネットおおいた
H23. 8. 18	政策研究会現地指導	大分市	7	大分県
H23. 9. 8	品質管理型林業研修会	大分市	25	中部振興局
H23. 10. 11	日田林工高校課外授業	日田市	14	林業研究部
H23. 10. 19	接着技術研修会	林業研究部	44	家具業者等
H23. 11. 8～9	スギ集団葉枯れ症の解明	中津市	60	山国川流域森林組合推進会議
H23. 11. 9	獣害対策アドバイザー研修会	佐伯市	200	佐伯市
H23. 11. 11	スギ集団葉枯れ症の解明	中津市	80	中津地区間伐講習会
H23. 11. 15	有田小学校課外学習	日田市	100	有田小学校
H23. 11. 16	塗装技術講習会	林業研究部	9	家具業者等
H23. 11. 24	緑の雇用研修	林業研究部	16	林業研究部
H23. 11. 25	スギ品種の同定及び木材加工技術	林業研究部	20	大分西部森林管理署
H23. 12. 1～20 (10日間)	試験研究機関における実践研修	林業研究部	4	大分県若手林業職員
H23. 12. 9	木の授業	日田市	30	若宮小学校
H24. 1. 20	日田林工高校課外授業	日田市	40	日田林工高校
H24. 2. 3	コンテナ苗木の育苗技術	林業研究部	20	大分県樹苗生産農業協同組合
H24. 2. 7	現地研究発表会	豊後大野市	200	大分県
H24. 2. 27	大分高等技術専門校課外授業	大分市	20	大分高等技術専門校
H24. 3. 2	林業研究部成果普及発表会	大分県豊肥振興局	20	林業研究部成果普及発表会
H24. 3. 7	広域普及プロジェクト研修	大分市	15	大分県
H24. 3. 8	職場体験学習	林業研究部	1	職場体験学習
H24. 3. 15	森林整備講習会	日田市	250	日田市森林組合
H24. 3. 21	スギ平角乾燥材研修会	宇佐市	14	大分北部地区森林・林業活性化協議会

(2) 受入研修

①長期研修受け入れ なし

②短期研修及び視察対応

対象者	件数	受入人数
生産者	14	351
団体等職員	0	0
普及指導員	3	20
学生	6	230
海外研修者		
その他	31	474
計	54	1,075

(3) 指導・研修プロジェクトの実証

課題名	目的	現地実証等の概要
品質管理型林業に向けたスギ奨励品種に関する実践的研究	優良なスギ品質の供給体制を構築するため、DNA分析に基づくスギ奨励品種の導入を推進する。	県中部・豊肥を重点地域とした奨励品種推進の研修会を7回実施し、参加者は495名であった。
スギ大径材の性能評価と用途開発に関する研究	横架材に対する県産スギ材の需要拡大を図るため、スギ横架材スパン表の活用を推進する。	県下の工務店への訪問等により、10社にスパン表活用拡大活動を実施した。併せて、28社にスパン表活用促進活動を実施した。

Ⅱ-7 きのことグループ

(1) 組織



(2) 職員配置状況

組織	職 種	職 員		技師	労務技師	業務技師	計	備 考
		事務	技術					
グループ長			1				1	
企画指導担当			3				3	広域普及指導員2
きのこチーム			5			1	6	
計			9			1	10	

(3) 業 務

- ① シイタケを始めとするきのこ類の栽培技術の改善・開発
- ② 栽培きのこ類の育種技術による品種の改良・開発
- ③ 温暖化に対応した乾シイタケ安定生産技術の開発
- ④ 乾シイタケの効率的な乾燥技術(省エネ)の改善
- ⑤ クヌギチップを利用した菌床生シイタケ培地の研究
- ⑥ 病虫害等の防除技術の研究・普及
- ⑦ きのこと類の分類・同定
- ⑧ 有用きのこ類の遺伝子収集・保存による育種素材の確保
- ⑨ 研究成果の普及及び栽培技術指導
- ⑩ 新規参入者の研修・技術指導
- ⑪ 栽培技術情報の収集・管理と情報発信

1. 平成23年度試験研究課題

試験研究課題名	担 当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題 1 中課題 1) 小課題				
「The・おおいた」ブランドを支える技術の開発と支援				
ア 消費者の心をつかむ商品(もの)づくり				
III バイオ技術等を駆使したオリジナル品種と育種素材の開発				
1 シイタケ新品種の育成				
1) 原木乾シイタケ優良品種の開発	きのこチーム		平21~25	県単
2) 原木生シイタケ優良品種の開発	きのこチーム		平21~25	県単
2 その他食用きのこ品種の育成				
1) ナメコの優良品種の開発	きのこチーム		平21~25	県単

試験研究課題名 I 大課題 1 中課題 1) 小課題	担 当	連携機関	研究期間	予算区分
V 低コスト、高品質化生産技術の確立				
3 シイタケの原木栽培技術の確立				
1) 暖冬に対応した乾シイタケ安定生産技術の開発	きのこチーム		平20～24	県単
2) 暖冬下における乾シイタケ品種の栽培特性に関する研究	きのこチーム		平20～24	県単
3) 原木生シイタケ栽培における冬期の生産量向上技術に関する研究	きのこチーム		平22～25	県単
4 シイタケの菌床栽培技術の確立				
1) クヌギチップを利用した菌床シイタケ培地に関する研究	きのこチーム	九州大学 他	平21～23	県単
5 その他有用きのこ類の生産技術の確立				
1) キクラゲ類の原木栽培技術の開発	きのこチーム		平21～24	県単
エ 県民が多面的機能を共有できる農山漁村の整備				
XI 環境負荷軽減技術の確立				
6 シイタケ生産工程省力化技術の開発				
1) 乾シイタケ栽培における効率的発生操作技術の開発	きのこチーム		平23～25	県単
7 きのこ類の病虫害防除技術の確立				
1) きのこ類栽培における害虫類の生態解明と防除技術の開発	きのこチーム		平22～23	県単
研究分野における基礎的データ収集と優良種苗等供給体制の確立				
1 育種素材の収集保存				
1) 有用きのこ類の遺伝子収集及び保存	きのこチーム		平元～	県単

2. 研究成果の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

刊行物誌名	刊行年月日	項数	部数
きのこの害虫防除マニュアル(※1)	H 2 3 年 1 0 月	46	500
林業研究部きのこグループ業務年報(第22号)	H 2 3 年 1 2 月	62	500
情報誌「くらんぷ」第42号	H 2 4 年 1 月	7	2,500
林業研究部きのこグループ研究報告(第8号)	H 2 4 年 2 月	20	100

2) 学会誌、専門誌等への投稿

執筆者	論文名	掲載誌名	巻(号)	掲載項
大賀祥治・宮本亮平 ・車柱栄・徐健植	アラゲキクラゲ (<i>Auricularia polytricha</i>) 培地の炭水化物含有量と子実体発生の相関	木材学会誌	57巻1号	8-13
石井秀之・甲斐充・ 高倉芳樹・高橋芳朗・清水慎吾	産業用 X 線 C T 装置によるシイタケ子実体原基の確認	九州森林研究	第65号	印刷中
細矢剛・根田仁・服部力・保坂健太郎・ 村上康明・吹春俊光・金城一彦・寺嶋芳江	西表島菌類観察会において鑑定されたきのこ目録	琉球大学農学部学術報告	第58号	21-28
村上康明・寺嶋芳江	西表島におけるきのこ相	同上	同上	29-34

(3) 研究会、学会等での発表

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
H23. 9. 11	日本菌学会第55回大会	村上康明	九州に産するケシボウズタケ属菌について
H23. 10. 29	第67回日本森林学会九州支部大会	村上康明	シイタケオオヒロズコガ類成虫のLED照明器具による誘引捕殺試験Ⅱ
H23. 10. 29	第67回日本森林学会九州支部大会	石井秀之	産業用X線CT装置によるシイタケ子実体原基の確認

(4) 研究成果発表会等

発表会の名称	開催年月日	開催場所	発表課題数	参加者数
平成23年度きのこグループ研究発表会	H24. 2. 7	きのこグループ	3	83
農林水産研究指導センター研究紹介	H24. 3. 5	大分文化会館	1	130

3. 研究成果の普及、技術指導

(1) 講習会、研修会等の開催

ア. 林業普及指導員研修

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
H23. 6. 2	可動式散水施設現地実習	豊後大野市	17	機械メーカー
H23. 6. 7	可動式散水施設現地実習	佐伯市	24	〃
H23. 6. 29	可動式散水施設現地実習	きのこグループ	26	〃
H23. 8. 30	第1回特用林産研修会	きのこグループ	15	
H23. 11. 16	普及員養成研修（1日目）	きのこグループ	2	
H24. 2. 24	普及員養成研修（7日目）	きのこグループ	2	
H24. 2. 28	普及員養成研修（8日目）	きのこグループ	2	
H24. 3. 2	普及員養成研修（9日目）	きのこグループ	2	
H24. 3. 6	第2回特用林産研修会	由布市	3	
H24. 3. 7	第3回特用林産研修会	豊後高田市	7	
H24. 3. 13	第4回特用林産研修会	竹田市	4	
H24. 3. 13	普及員養成研修（9日目）	日出町	3	
H23. 11. 29～12. 1	普及員養成研修（2～4日目）	きのこグループ	2	
H23. 12. 21～22	普及員養成研修（5～6日目）	きのこグループ	4	

イ. 林業普及技術習得研修

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
H23. 5. 31	林業全般基礎研修	県庁	20	

ウ. 大分しいたけ源兵衛塾（第4期）

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
H23. 8. 3	大分しいたけ源兵衛塾第7回研修会	きのこグループ	46	
H23. 9. 8	大分しいたけ源兵衛塾第8回研修会	きのこグループ	21	
H23. 9. 28～29	大分しいたけ源兵衛塾第9回研修会	別府市他	56	
H24. 1. 25	大分しいたけ源兵衛塾第10回研修会	きのこグループ	41	
H24. 2. 7	大分しいたけ源兵衛塾第11回研修会・卒塾式	きのこグループ	41	

エ. 新規参入者研修（栽培体験コース）

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
H23. 7. 26	第1回北部地区新規参入者ステップアップ研修会	宇佐市	24	
H23. 8. 28	第1回原木しいたけ栽培新規参入者研修会	きのこグループ	82	
H23. 9. 6	第1回東部地区新規参入者ステップアップ研修会	国東市	23	
H23. 10. 23	第2回原木しいたけ栽培新規参入者研修会	きのこグループ	72	
H24. 2. 13	しいたけセミナー	きのこグループ	8	豊後大野市と共催
H24. 2. 14	しいたけセミナー	きのこグループ	16	〃
H24. 2. 20	しいたけセミナー	きのこグループ	8	〃
H24. 2. 19	第3回原木しいたけ栽培新規参入者研修会	きのこグループ	59	
H24. 2. 21	第2回北部地区新規参入者ステップアップ研修会	宇佐市	23	

オ. きのこ栽培研修

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
H23. 7. 21	第1回しいたけ源基塾研修会	きのこグループ	30	
H23. 8. 2	中津市椎茸振興協議会研修会	中津市	54	
H23. 8. 21	第1回夢アグリ塾農業者講習会	豊後大野市	8	
H23. 9. 12	秋子づくりと安全伐採研修会	きのこグループ	160	
H23. 10. 25	第2回しいたけ源基塾研修会	きのこグループ他	28	
H23. 11. 2	中津市原木生椎茸研究会研修会	中津市	12	
H23. 11. 2	宇目椎茸生産者大会	佐伯市	39	
H23. 12. 13	椎茸生産技術研修会	竹田市	37	
H23. 12. 14	第3回原基塾研修会	大分市他	33	
H24. 2. 10	第2回夢アグリ塾農業者講習会	豊後大野市	25	
H24. 2. 23	第4回原基塾研修会	竹田市	25	
H24. 3. 17	第3回夢アグリ塾農業者講習会	豊後大野市	25	

カ. 人材育成研修等

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
H23. 8. 10	農業人材育成（高校生）研修	きのこグループ	3	
H23. 12. 1	食の伝道師研修会	きのこグループ	14	
H23. 12. 13	農業大学校シイタケ栽培研修	きのこグループ	11	
H23. 12. 20	農業大学校シイタケ栽培研修	きのこグループ	11	
H24. 1. 13	農業大学校シイタケ栽培研修	きのこグループ	11	
H24. 1. 27	高大連携「地域と農業」	三重総合高校	16	
H24. 1. 27	農業大学校シイタケ栽培研修	きのこグループ	11	
H24. 2. 10	農業大学校シイタケ栽培研修	きのこグループ	11	
H24. 2. 16	農業大学校シイタケ栽培研修	きのこグループ	10	
H24. 3. 22	農業大学校シイタケ栽培研修	きのこグループ	11	

キ. 品評会

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
H23. 4. 7	国東市安岐町乾椎茸生産グループ品評会選別会	国東市	16	
H23. 4. 18	第5回東部地区乾椎茸品評会審査会	杵築市	18	
H23. 4. 19	豊後高田市乾椎茸品評会審査会	豊後高田市	9	
H23. 4. 21	第11回臼津地区乾椎茸品評会審査会及び研	臼杵市	38	
H23. 4. 25	佐伯市乾椎茸品評会審査会	佐伯市	12	
H23. 4. 25	豊後大野市朝地町乾椎茸品評会審査会	豊後大野市	18	
H23. 4. 26	日本一のナバ山師になろう会選別会	豊後大野市	24	
H23. 4. 27	第42回豊後大野市三重町乾椎茸品評会審査会	豊後大野市	9	
H23. 5. 6	第54回大分県乾椎茸品評会（箱物）審査会	椎茸農協本部	24	
H23. 5. 12	第54回大分県乾椎茸品評会（袋物）審査会	椎茸農協本部	38	
H23. 5. 13	第55回大分県乾椎茸品評会（袋物）審査会	椎茸農協本部	35	
H23. 5. 19	第38回JA全農おおいた乾椎茸品評会審査会	全農おおいた県本部	9	
H23. 11. 17	第23回大分県生しいたけ品評会審査会	大分市	20	

(2) 受入研修

①長期研修受け入れ なし

② 短期研修及び視察対応

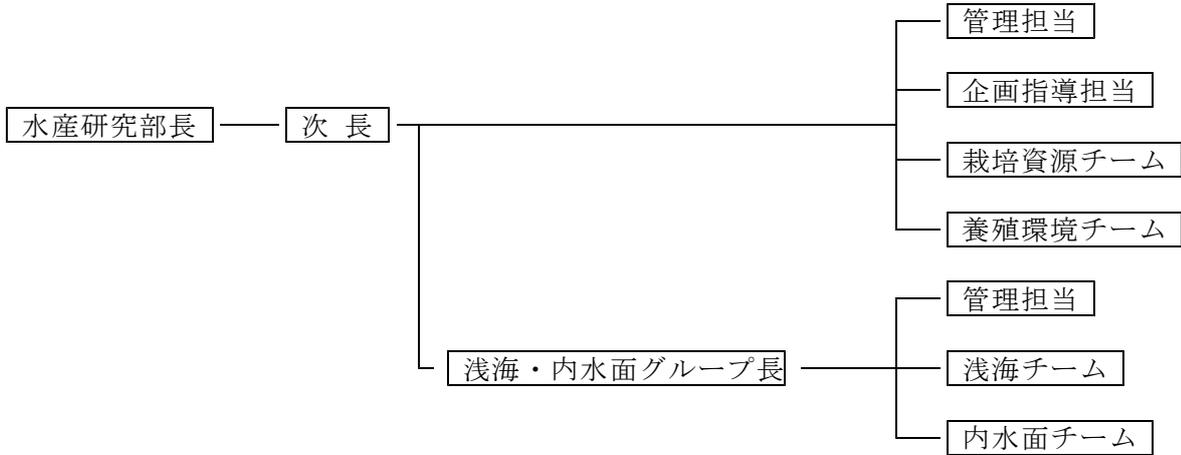
対象者	件数	受入人数
生産者	45	1,243
団体等職員	0	0
普及指導員	30	137
学生	9	95
海外研修者	1	3
その他	59	240
	144	1,718

(3) 指導・研修プロジェクトの実証

課題名	目的	現地実証等の概要
乾シイタケ乾燥技術の効率化に関する研究	乾シイタケ生産者が所有する乾燥機の乾燥スケジュールの見直し・改善による効率的な乾燥技術の普及による乾燥コストの削減	<ul style="list-style-type: none"> ・既存乾燥機における省エネ乾燥スケジュールの現地実証により燃料の削減効果については確認できたものの、具体的な削減量等について今後実証を継続する必要がある。 ・広域普及及び地域普及指導との連携により生産者の取り組みについて指導を強化する。

II-8 水産研究部

(1) 組織



(2) 職員配置状況

水産研究部	職 種 組 織	職 員		技師	労務技師	業務技師	事務補佐	計	備 考
		事務	技術						
水産研究部	部長		1					1	海事職員 6
	次長	1						1	
	管理担当	4	6				1	11	
	企画指導担当		2					2	
	栽培資源チーム		7					7	
	養殖環境チーム		6					6	
	計	5	22				1	28	
浅海面・内水面	グループ長		1					1	
	管理担当	1					1	2	
	浅海チーム		8	1				9	
	内水面チーム		3					3	
	計	1	12	1			1	15	
合 計		6	34	1			2	43	

(3) 業 務

- ①漁業の調査研究に關すること
- ②漁業の生産及び技術指導に關すること
- ③水産動植物の増養殖に關すること
- ④漁業技術の改良普及に關すること
- ⑤水産動物の防疫等魚病指導に關すること
- ⑥水産物の加工等水産物加工指導に關すること
- ⑦その他水産業の改良発達に關すること

1. 平成23年度試験研究課題

試験研究課題名	担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目				
I 産地間競争に打ち勝ち、もうかる農林水産業を実現するための研究開発				
1 ブランド化のための技術開発				
1) 資源生態及び資源評価ならびに資源回復に関する研究 (水産研究部 豊後水道)				
(1) 資源生態及び評価に関する研究	栽培資源 チーム	(独) 水産総 合研究セン ター、関係県	H22～24	委託
(2) 資源回復に関する研究	栽培資源 チーム	(独) 水産総 合研究セン ター	H21～25	県単 一部国庫
1) 資源生態及び資源評価ならびに資源回復に関する研究 (浅海・内水面グループ 瀬戸内海)				
(1) 資源生態及び評価に関する研究	浅海チーム	(独) 水産総 合研究セン ター	H22～24	委託
(2) 資源回復に関する研究	浅海チーム	(独) 水産総 合研究セン ター	H14～H25	県単
2) 栽培漁業の推進に関する研究 (水産研究部 豊後水道)				
(1) 放流後のモニタリング	栽培資源 チーム		H21～25	県単
(2) 放流効果の解明と放流手法の改善	栽培資源 チーム		H21～25	県単
(3) 放流技術の開発	栽培資源 チーム		H21～25	県単
(4) 新規栽培魚種としての適正判断	栽培資源 チーム		H21～25	県単
2) 栽培漁業の推進に関する研究 (浅海・内水面グループ 瀬戸内海)				
(1) 放流後のモニタリング	浅海チーム		H23～25	県単 委託
(2) 放流効果の解明と放流手法の改善	浅海チーム		H23～25	県単 委託
(3) 放流技術の開発	浅海チーム		H23～25	県単 委託
(4) 新規栽培魚種としての適正判断	浅海チーム		H23～25	県単 委託
3) 新規養殖及び栽培対象魚種導入のための種苗生産に関する技術開発 (水産研究部)				
(1) 新規養殖魚種(カワハギ)の種苗生産技術開発	栽培資源 チーム		H21～H24	県単
(2) 人工種苗の有用性確認のための養殖実証試験	栽培資源 チーム	養殖環境 チーム	H21～H24	県単
(3) 漁業公社への技術移転	栽培資源 チーム	漁業公社	H21～H24	県単
4) 養殖技術の開発・普及				
(1) 既存養殖魚種の高品質化技術の開発	養殖環境 チーム	栽培資源 チーム	H21～H23	県単
(2) 新規養殖魚種(カワハギ等)養殖技術の開発	養殖環境 チーム	栽培資源 チーム	H21～H23	県単
5) 育種による優良品質の作出				
(1) ヒラメの高水温耐性品種の作出	栽培資源 チーム	養殖環境 チーム	H21～H23	県単

試験研究課題名	担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目				
6) 放流対象魚介類(ナマコ)の種苗生産の研究				
(1) 種苗量産技術の開発	浅海チーム		H23~25	県単
(2) 中間育成技術開発	浅海チーム		H23~25	県単
(3) 放流技術開発と効果検証	浅海チーム		H23~25	県単
(4) カイアシ類防除方法の検討	浅海チーム		H23~25	県単
7) イワガキ養殖・種苗生産に関する技術指導				
(1) イワガキ人工種苗生産の技術移転	浅海チーム	振興局	H23~H25	県単
8) アサリ大型種苗量産技術開発研究				
(1) 飼育方法、餌料の検討	浅海チーム		H16~H25	県単
(2) 種苗生産の経費削減	浅海チーム		H16~H25	県単
(3) 大型種苗生産の量産技術開発	浅海チーム		H16~H25	県単
9) 有用藻類の養殖技術開発				
(1) ヒジキの養殖技術の確立及び普及	浅海チーム	振興局	H18~H23	県単
(2) ヒジキの人工種苗生産技術の開発	浅海チーム		H18~H23	県単
(3) ノリの病害対策と情報提供	浅海チーム		長期	県単
10) ヒジキ資源管理手法の開発				
(1) 生態調査	浅海チーム		H23~H25	県単
(2) 増殖試験	浅海チーム		H23~H25	県単
(3) 漁獲実態調査	浅海チーム		H23~H25	県単
11) 種苗生産に関する開発研究				
(1) アユ親魚の確保・系統保存	内水面チーム	漁業公社	H22~H24	県単
(2) 天然遡上アユを親魚とした種苗量産技術開発	内水面チーム	漁業公社	H22~H24	県単
12) 屋内高密度養殖によるドジョウ主産地の形成				
(1) 効率的な生産システムの確立、指導、普及	内水面チーム		H21~H23	財産収入
(2) 餌料生物の安定培養技術の確立	内水面チーム		H21~H23	財産収入
(3) 養殖生産コスト削減対策	内水面チーム		H21~H23	財産収入
13) アユ等の内水面重要資源の持続的利用のための研究				
(1) アユ遡上資源調査、産卵場・流下仔魚調査	内水面チーム		H22~H24	県単
(2) 保護水面調査	内水面チーム		H22~H24	県単
2 マーケット起点のものづくりを支える技術開発				
1) 病害及び防疫対策に関する研究				
(1) ウイルス病等の早期発見技術の開発	養殖環境 チーム	(独)水産総 合研究セン	H12~	国庫補助
(2) 感染経路の遮断及び治療方法等の確立のための研究	養殖環境 チーム	(独)水産総 合研究セン ター	H12~	国庫補助
(3) 魚病診断及び対策指導	養殖環境 チーム	(独)水産総 合研究セン ター	H12~	国庫補助
(4) 新しいワクチンの開発のための基礎研究	養殖環境 チーム	(独)水産総 合研究セン ター 九州大学 東京海洋大学	H23~H25	県単 委託
(5) ワクチンの適正使用の指導	養殖環境 チーム		H12~	国庫補助
(6) ヒラメ食中毒原因寄生虫対策	養殖環境 チーム	(独)水産総 合研究セン ター 東京大学	H23~H25	委託
(7) 内水面の疾病対策及び治療技術開発	内水面チーム	養殖環境 チーム	H12~	国庫補助

試験研究課題名	担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目				
2) 養魚飼料、餌料の品質評価及び改良に関する研究				
(1) 養殖魚品質向上技術開発	養殖環境 チーム	栽培資源 チーム	H21～H23	県単
(2) 低魚粉飼料を用いた病気に強い養殖魚創出技術開発	養殖環境 チーム	栽培資源 チーム	H23	県単
(3) 養魚用飼料の分析・指導	養殖環境 チーム	栽培資源 チーム	H21～H23	県単
3 力強い担い手を育成するための技術開発				
4 地球温暖化・環境対策等の技術開発				
1) 漁海況予報に関する研究 (水産研究部 豊後水道)				
(1) 漁海況データの収集と予報資料の発信	栽培資源 チーム	(独) 水産総 合研究セン ター	長期	国庫補助
(2) 漁海況予測に関する技術開発	栽培資源 チーム	(独) 水産総 合研究セン ター	長期	国庫補助
(3) 他機関との連携による漁況予測	栽培資源 チーム	(独) 水産総 合研究セン ター、関係県	長期	国庫補助
1) 漁海況予報に関する研究 (浅海・内水面グループ 瀬戸内海)				
(1) 漁海況予測に関する技術開発	浅海チーム	(独) 水産総 合研究セン ター	長期	国庫補助
2) 有害プランクトンの生態及び赤潮・貝毒被害防除技術に 関する研究 (水産研究部 豊後水道)				
(1) カレニア・ミキモトイ等の より正確な発生予察技術の確立	養殖環境 チーム	(独) 水産総 合研究セン ター、浅海	H21～H23	県単 委託
(2) 上記以外の有害プランクトンによる赤潮・貝毒発生 予察技術の確立	養殖環境 チーム	(独) 水産総 合研究セン ター	H21～H23	県単
(3) 有害プランクトンの生理生態研究とそれを基にした赤潮・ 貝毒被害防止のための技術及び手法の開発	養殖環境 チーム	(独) 水産総 合研究セン ター	H21～H23	県単
2) 有害プランクトンの生態及び赤潮・貝毒被害防除技術に 関する研究 (浅海・内水面グループ 瀬戸内海)				
(1) カレニア・ミキモトイ等の より正確な発生予察技術の確立	浅海チーム	(独) 水産総 合研究セン ター、養殖環 境チーム	H21～H23	県単
(2) 周防灘関係県との有害プランクトン共同調査	浅海チーム	(独) 水産総 合研究セン ター、山口 県、福岡県 等、養殖環 境チーム	H21～H23	委託
(3) 貝毒被害防止技術の開発	浅海チーム	(独) 水産総 合研究セン ター、養殖環 境チーム	H21～H23	委託
3) 有害生物の生態等に関する研究				
(1) ミズクラゲ等の分布状況の定量的な把握	栽培資源 チーム		長期	県単
(2) 有害生物の生態に関する基礎的知見の整理と 駆除対策の検討	浅海チーム		H16～H25	県単 委託
4) 海域の温暖化に対応した魚類養殖技術の開発研究				
(1) 飼料添加物を利用した生体防御能の向上効果の研究	養殖環境 チーム		H21～H23	県単
5) 養殖漁場の環境保全に関する調査研究・指導				
(1) 漁場環境調査結果による適切な評価方法の開発	養殖環境 チーム		H22～H24	県単
(2) 養殖漁場の底質評価の情報提供	養殖環境 チーム		H22～H24	県単

試験研究課題名	担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目				
6) 漁場造成技術開発				
(1) 藻場のモニタリング調査	栽培資源チーム		H19～H23	県単
(2) 磯焼けの回復技術に関する研究	栽培資源チーム		H19～H23	県単
(3) 魚礁の効果調査	栽培資源チーム		H21～H25	県単 国庫補助
7) フルボ酸鉄による藻場造成力実証試験				
(1) 海水中の溶存態鉄の動態の解明	栽培資源チーム	養殖環境チーム	H22～H24	県単
(2) 溶存態鉄と藻場・磯焼けとの関係の解明	栽培資源チーム		H22～H24	県単
(3) 溶存態鉄濃度と藻類の生長との関連の解明	栽培資源チーム	養殖環境チーム	H22～H24	県単
8) 漁場環境・水生生物に関するモニタリング調査				
(1) 漁場環境調査	内水面チーム		H22～H24	県単
(2) 水生生物基礎調査	内水面チーム		H22～H24	県単
5 地域資源の活用と省エネルギーの開発技術				
1) 漁海況情報の迅速な提供				
(1) シラス魚群マップシステムの活用試験	栽培資源チーム	北海道大学、徳島県他	H19～H23	県単
II 研究を支える基礎調査と優良種苗等供給体制の確立				
1) 漁獲統計資料の整備	栽培資源チーム		長期	県単
2) 疾病診断と養殖衛生管理指導				
(1) 医薬品等の適正使用指導	養殖環境チーム 内水面チーム		長期	県単
(2) 養殖場の調査・監視	養殖環境チーム 内水面チーム		長期	県単
3) 種苗生産供給体制の確立と支援				
(1) 漁業公社への技術指導、技術支援	栽培資源チーム		長期	県単
(2) スッポン、ドジョウ種苗の安定供給	内水面チーム		H21～H23	県単 財産収入
4) 漁村グループを対象とした加工指導	養殖環境チーム	各振興局	長期	県単
5) 漁場環境調査				
(1) 漁場環境調査（浅海定線調査、漁場環境保全調査等）	養殖環境チーム	環境保全課	長期	国庫補助
6) 栽培漁業展開のための技術指導				
(1) 放流方法等の指導	栽培資源チーム 浅海チーム		長期	県単
7) 有害生物の駆除対策指導				
1) ブラックバス等の外来魚駆除技術の普及・指導	内水面チーム		長期	県単
2) カワウによる食害被害軽減技術の普及・指導	内水面チーム		長期	県単

2. 研究成果の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

刊行物誌名	刊行年月日	項数	部数
おおいたアクア・ニュースNo. 33	H23. 7. 20	16	345
平成22年度大分県農林水産研究指導センター水産研究部事業報告	H23. 12. 19	318	HPで公開
おおいたアクア・ニュースNo. 34	H24. 1. 31	12	344

(2) 学会誌、専門誌等への投稿

執筆者	論文名	掲載誌名	巻(号)	掲載項
行平真也	大分県のシラス漁業-全国有数のちりめんの産地	瀬戸内海	63	69-70
内海訓弘	ドジョウ 高度化した管理を実現する屋内無泥養殖の概要	養殖	ニッチな魚種の養殖技術 2012年版	32-35
Kazuya Nagasawa, <u>Yutaka Fukuda</u> and Shinji Tanaka	Infection with <i>Peniculus minuticaudae</i> (Copepoda:pennellidae) on Threadsail filefish(<i>Stephanolepis cirrhifer</i>) and Black scraper(<i>Thamnaconus modestus</i>) cultered in Japan	生物圏科学	50	43-47
Kazuya Nagasawa, <u>Yutaka Fukuda</u>	Two species of <i>Caligus</i> (Copepoda:Caligidae) from Amberjacks(<i>Seriola</i> spp.) cultured in Oita prefecture, Kyushu, Westrn Japan	生物圏科学	50	49-53

(3) 研究会、学会等での発表

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
H23. 9. 14	平成23年度中央ブロック資源・海洋研究会	福田博文・岡田誠・梶達也・ <u>行平真也</u> ・石田博文	日向灘におけるウルメイワシ・マイワシの資源生態と漁況予測
H23. 11. 11	平成23年度水産海洋学会研究発表大会	渡慶次力・柳哲雄・ <u>行平真也</u> ・橋田大輔・市川忠史・林田秀一・福田博文・甲斐史文	九州東方沿岸域における透明度の季節・経年変動特性
H24. 1. 16	平成23年度九州・山口ブロック水産試験場長会内水面分科会	朝井隆元	アマゴの春採卵技術の開発
H24. 1. 26	平成23年度アユの疾病研究部会	朝井隆元	ACGDによるアユ大量死の発生要因の検討
H24. 3. 27	2012年度日本海洋学会春季大会	松永豊毅・磯辺篤彦・ <u>行平真也</u>	豊後水道を横断するフェリー観測水温データから見た急潮の潮汐周期に対する同期生
H24. 3. 28	平成24年度日本水産学会春季大会	木本圭輔・岩本郁生	アマゴの初回成熟を開始させる日長条件の探索
H24. 3. 28	平成24年度日本水産学会春季大会	<u>木本圭輔</u> ・朝井隆元・安東宏徳	短日期間の挿入によるアマゴ春採卵技術の開発

(4) 研究成果発表会等

発表会の名称	開催年月日	開催場所	発表課題数	参加者数
平成23年度大分県水産関係研究者連絡協議会研究発表会	H23. 12. 12 ～13	豊後高田総合庁舎	16	37
農林水産研究指導センター研究紹介	H24. 3. 5	大分文化会館 第1小ホール	1	130

3. 研究成果の普及、技術指導

(1) 講習会、研修会等の開催

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
H23. 4. 12	豊後水道南部海域小型底曳き網漁業における試験操業結果	佐伯市	40	大分県漁業協同組合
H23. 4. 14	豊後水道南部海域小型底曳き網漁業における試験操業結果	愛媛県八幡浜市	20	大分県漁業管理課
H23. 4. 25	水産用医薬品講習会	水産研究部	13	大分県漁協米水津支店
H23. 4. 26	水産用医薬品講習会	水産研究部	13	大分県漁協上浦支店
H23. 5. 2	養殖ヒラメの寄生虫対策	佐伯市	36	大分県漁協下入津支店
H23. 5. 7	大分県漁業士会底曳き網漁業部会	日出町	25	大分県漁業士会底曳き網漁業部会
H23. 5. 12	水産用医薬品講習会	佐伯市	12	大分県漁協蒲江支店
H23. 5. 17	水産用ワクチン講習会	水産研究部	5	振興局、漁協支店等
H23. 5. 19	水産用医薬品講習会	佐伯市	16	大分県漁協佐伯支店
H23. 5. 23	カニかごの目合い拡大が小型ガザミに与える脱出効果	宇佐市	20	大分県漁協宇佐支店
H23. 6. 2	水産用医薬品講習会	佐伯市	26	大分県漁協蒲江支店
H23. 6. 3	魚病および赤潮担当者会議	佐伯市	20	関係市、漁協支店等
H23. 6. 7	カニかごの目合い拡大が小型ガザミに与える脱出効果	中津市	20	大分県漁協中津支店
H23. 6. 7	平成23年度第4回赤潮講習会	佐伯市	13	大分県漁協佐伯支店青年部
H23. 6. 8	豊後水道北部地区漁協支店・市と水産研究部等による連絡会議	臼杵市	19	中部振興局
H23. 6. 9	豊後水道南部地区漁協支店・市と水産研究部等による連絡会議	佐伯市	17	南部振興局
H23. 6. 16	水産用医薬品講習会	佐伯市	16	大分県漁協名護屋支店
H23. 6. 17	周防灘に馴致放流したクルマエビの放流効果	姫島村	15	大分県漁協姫島支店
H23. 6. 22	豊後水道北部海域赤潮研究会	臼杵市	20	中部振興局
H23. 6. 24	大分県水産養殖協議会講習会	佐伯市	76	水産養殖協議会
H23. 7. 12	日田市内水面利活用推進協議会	宇佐市安心院町	16	日田市農林振興部農業振興課
H23. 7. 30	大分県漁業士総会研修会	大分市	30	大分県漁業士会
H23. 8. 4	第12回リバーサイドウオークでの講演	宇佐市安心院町	50	NPO法人安心院が「リバーサイドウオーク」研究会
H23. 8. 17	キジハタ・オニオコゼの中間育成・標識放流について	姫島村	10	大分県漁協姫島支店
H23. 8. 18	大分市小学校教育研究会社会科部会	宇佐市安心院町	70	大分市小学校教育研究会社会科部会
H23. 8. 24	屋内無泥ドジョウ養殖の視察	宇佐市安心院町	1	榑渡産業
H23. 10. 25	豊後水道研究集会	愛媛県	10	愛媛大学
H23. 11. 4	スッポンの生態と養殖	宇佐市安心院町	11	安心院高校食文化コース
H23. 11. 4	屋内無泥ドジョウ養殖の視察	宇佐市安心院町	3	静岡県中小企業団体中央会 東部事務所
H23. 11. 15	屋内無泥ドジョウ養殖の視察	宇佐市安心院町	3	社会福祉法人 あすなろ福祉会
H23. 11. 17	ヒラメのクドア症に関する講習会	佐伯市	69	水産養殖協議会
H23. 12. 6	水産用医薬品講習会	佐伯市	24	大分県漁協下入津支店

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
H24.1.20	カワウ・外来魚調査報告	大分市	100	水産振興課 大分県内水面漁連
H24.1.24	沿岸シラスの最適漁場抽出支援ツールの開発に係る現地協議会	宮崎県延岡市	15	宮崎県水産試験場
H24.2.4	0-rabo イカと煮干しの解剖	大分市	30	大分県工業振興課
H24.2.4	カワウ調査報告	大分市	50	大分川漁業協同組合
H24.2.8	キジハタ・オニオコゼの標識放流について	姫島村	15	大分県漁協姫島支店
H24.2.10	周防灘3県ナルトビエイ生態調査	広島県 東広島市	30	広島大学等
H24.2.10	別府湾ちりめん協議会	別府市	20	豊後別府湾ちりめん協議会
H24.2.18	豊前海漁業青年協議会	宇佐市	30	豊前海漁業青年協議会
H24.3.8	沿岸シラスの最適漁場抽出支援ツールの開発に係る現地協議会	宮崎県宮崎市	10	宮崎県水産試験場
H24.3.10	昼と夜に獲れるタチウオの成熟度に差があるか？	大分市	20	大分県漁協大分支店
H24.3.17	カワウ・外来魚調査報告	宇佐市安心院町	12	駅館川漁業協同組合
H24.3.21	クルマエビの病害対策	国東市	12	宮崎県水産試験場
H24.3.24	魚類養殖講習会	佐伯市	35	水産養殖協議会

（2）受入研修

①長期研修受け入れ なし

②短期研修及び視察対応

対象者	件数（件）	受入人数（人）
生産者	24	144
団体等職員	16	149
普及指導員	0	0
学生	16	226
海外研修者	1	3
その他	16	121
計	73	643

（3）指導・研修プロジェクトの実証

課題名	目的	現地実証等の概要
カボス添加による養殖ブリの品質向上技術開発・普及（かぼすブリ）	県内養殖の最重要魚種である養殖ブリの品質及び商品力向上のため、カボス添加による養殖生産技術の開発・普及を行う。	・白杵と上入津で現地養殖試験を実施した。 ・白杵のパウダー区（0.75%添加）で効果が認められたが、上入津（0.5%添加）は期待した効果は得られなかった。
イワガキ種苗量産技術の移転	イワガキ養殖の事業化を推進するため、民間への種苗生産技術の移転を図る。	・イワガキの種苗生産技術の移転は浅海チームでの研修に加え、県漁協名護屋支店荷捌所にて種苗生産を開始した。（現地指導：6回） ・民間による種苗生産数は現地生産2千個に、浅海チームでの研修時の種苗44千個を加え46千個であった。

農林水産研究指導センター研究部・グループの所在地及び連絡先

組織名	郵便番号	所在地	電話番号	FAX番号
農林水産研究指導センター (本部)	879-7111	豊後大野市三重町赤峰2328-8	0974-28-2074	0974-28-2052
農業研究部	879-7111	豊後大野市三重町赤峰2328-8	0974-22-0670	0974-22-0675
水田農業グループ	872-0103	宇佐市大字北宇佐65	0978-37-1141	0978-37-0036
果樹グループ	873-0511	国東市国東町小原4402	0978-72-0407	0978-72-3402
カボス・中晩柑チーム	879-2413	津久見市大字津久見浦3456	0972-82-2837	0972-82-5322
ナシ・ブドウチーム	872-0103	宇佐市大字北宇佐65	0978-37-0149	0978-37-1437
花きグループ	874-0844	別府市大字鶴見710-1	0977-66-4706	0977-67-5218
畜産研究部	878-0201	竹田市久住町大字久住3989-1	0974-76-1216	0974-76-1227
豚・鶏チーム	879-7111	豊後大野市三重町赤嶺2328-8	0974-22-0673	0974-22-0980
林業研究部	877-1363	日田市大字有田字佐寺原35	0973-23-2146	0973-23-6769
きのこグループ	879-7111	豊後大野市三重町赤嶺2369	0974-22-4236	0974-22-6850
水産研究部	879-2602	佐伯市上浦大字津井浦194-6	0972-32-2155	0972-32-2156
浅海・内水面グループ	879-0617	豊後高田市呉崎3386	0978-22-2405	0978-24-3061
内水面チーム	872-0504	宇佐市安心院町荘42	0978-44-0329	0978-34-4050

平成23年度
大分県農林水産研究指導センター業務年報

平成24年8月発行

編集
発行 大分県農林水産研究指導センター

〒879-7111
豊後大野市三重町赤嶺2328-8
TEL 0974-28-2074
FAX 0974-28-2052